

# Novell Enterprise™ Linux\* Services

[www.novell.com](http://www.novell.com)

ラボガイド

2004 年 1 月 15 日

# N

Novell®

## 法令通知

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、本書の内容または本書を使用した結果について、いかなる保証、表明または約束も行っておりません。また、本書の商品性、および特定の目的への適合性について、いかなる黙示の保証も否認し、排除します。また、本書の内容は予告なく変更されることがあります。

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、すべてのノベル製ソフトウェアについて、いかなる保証、表明または約束も行っておりません。また、ノベル製ソフトウェアの商品性、および特定の目的への適合性について、いかなる黙示の保証も否認し、排除します。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、ノベル製ソフトウェアの内容を変更する権利を常に留保します。

米国の輸出規制または居住国の法律を含むあらゆる準拠法または規制に違反して本製品を輸出または再輸出することはできません。

Copyright © 2003 Novell, Inc. All rights reserved. 本書の一部または全体を無断で複写・転載することは、その形態を問わず禁じます。

米国特許番号 5,608,903; 5,671,414; 5,758,344; 5,832,275; 5,832,483; 5,832,487; 5,870,739; 5,873,079; 5,878,415; 5,884,304; 5,910,803; 5,933,503; 5,933,826; 5,946,467; 5,956,718; 5,963,938; 6,052,724; 6,065,017; 6,067,093; 6,115,039; 6,167,393; 6,286,010; 6,308,181; 6,345,266; 6,424,976; 6,516,325; 6,519,610; 6,532,451; 6,539,381; 6,578,035; 6,615,350. 特許申請中。

Novell, Inc.  
1800 South Novell Place  
Provo, UT 84606  
U.S.A.

[www.novell.com](http://www.novell.com)

Novell Nterprise Linux Services ラボガイド

2004 年 1 月 15 日

**オンラインドキュメント**：本製品とその他の Novell 製品のオンラインマニュアルにアクセスする場合や、アップデート版を入手する場合は、<http://www.novell.com/documentation/japanese> を参照してください。

## Novell の商標

DirXML は、米国 Novell, Inc. の米国ならびに他の国における登録商標です。

eDirectory は、米国 Novell, Inc. の商標です。

GroupWise は、米国 Novell, Inc. の米国ならびに他の国における登録商標です。

NetMail は、米国 Novell, Inc. の商標です。

NetWare は、米国 Novell, Inc. の米国ならびに他の国における登録商標です。

Novell Authorized Reseller は、米国 Novell, Inc. のサービスマークです。

Novell は、米国 Novell, Inc. の米国ならびに他の国における登録商標です。

Novell iFolder は、米国 Novell, Inc. の米国ならびに他の国における登録商標です。

Novell NetStorage は、米国 Novell, Inc. の商標です。

Nterprise は、米国 Novell, Inc. の商標です。

Red Carpet は、米国 Novell, Inc. の商標です。

## サードパーティの商標

サードパーティ各社とその製品の商標は、所有者であるそれぞれの会社に所属します。

この製品には、Apache および Tomcat を含め、Apache ライセンスに従ってライセンスが許諾される内容が含まれています。

この製品には、RSA Security, Inc. からライセンスが許諾されるコードが含まれています。IBM からライセンスが許諾される部分については、<http://oss.software.ibm.com/icu4j/> に掲載されています。



# 目次

このガイドについて	7
<b>1 Nterprise Linux Services のラボへのインストール</b>	<b>9</b>
必要なラボ設定	9
サーバインストール要件への準拠	10
静的 IP アドレスを使用する	10
ホスト名のみを入力する	10
事前にパーティションの計画を立てる	11
NNLS のインストール前に /etc/hosts を調べる	11
ダウンロードとインストールメディアの作成	12
.iso イメージファイルのマウント	13
サーバソフトウェアのインストール	14
必要条件	14
手順	14
次の手順	16
<b>2 eDirectory とアイデンティティサービス</b>	<b>17</b>
このガイドでの eDirectory 情報の使用	17
eDirectory のプランニングの概要	18
ラボの eDirectory ツリー	18
現在のラボツリー	19
ラボツリーの拡張	20
iManager へのアクセス	21
ユーザおよびグループのコンテキストの作成	22
Linux User Management (LUM) 用グループオブジェクトの作成	22
ユーザ (eDirectory ユーザオブジェクト) の作成	23
DirXML および DirXML スタータパックに関する注意	24
次の手順	24
<b>3 NNLS 上での Samba (Windows ファイルサービス)</b>	<b>25</b>
概要	25
Samba のユーザホームディレクトリの作成	26
次の手順	27
<b>4 メッセージングサービス</b>	<b>29</b>
概要	29
Users 用の NetMail の設定	30
NetMail アドレス帳の設定	31
GroupWise 6.5 Collaboration Client のインストール	32
次の手順	32
<b>5 Novell iFolder</b>	<b>33</b>
概要	33
ユーザ検索コンテキストの設定	34
iFolder ユーザの有効化	34
次の手順	34

<b>6</b>	<b>Virtual Office</b>	<b>35</b>
	次の手順 . . . . .	36
<b>7</b>	<b>iPrint</b>	<b>37</b>
	概要 . . . . .	37
	プリンタ用 eDirectory コンテキストの作成 . . . . .	38
	プリントドライバストアの作成 . . . . .	39
	Windows プラットフォームからドライバストアへのプリンタドライバの追加 . . . . .	39
	プリントマネージャオブジェクトの作成 . . . . .	40
	iPrint プリンタオブジェクトの作成 . . . . .	41
	次の手順 . . . . .	41
<b>8</b>	<b>NetStorage</b>	<b>43</b>
	次の手順 . . . . .	44
<b>9</b>	<b>eGuide</b>	<b>45</b>
	次の手順 . . . . .	46
<b>10</b>	<b>Linux User Management (LUM)</b>	<b>47</b>
	新しい手順 . . . . .	48
<b>11</b>	<b>NNLS の学習</b>	<b>49</b>
	Samba (Windows ファイルサービス) の使用 . . . . .	49
	ブラウザを使用した NetMail へのアクセス . . . . .	50
	GroupWise Collaboration クライアントを使用した NetMail へのアクセス . . . . .	51
	NetMail アカウントの作成 . . . . .	51
	NetMail アカウントへのアクセス . . . . .	52
	iFolder の使用 . . . . .	52
	iFolder クライアントを使用したユーザアカウントへのアクセス . . . . .	52
	ファイル同期の観察 . . . . .	53
	NetDrive . . . . .	53
	Virtual Office の使用 . . . . .	54
	iPrint の使用 . . . . .	55
	NetStorage の使用 . . . . .	55
	eGuide の使用 . . . . .	56
	Linux User Management (LUM) の使用 . . . . .	56
	次の手順 . . . . .	57

## このガイドについて

新しい製品を導入する組織では通常、実際にその製品を使い始める前にラボ環境でテストを実施します。

このガイドでは、Novell® Nterprise™ Linux Services (NNLS) をシンプルな特定の構成でラボ環境に設定する方法について説明します。この構成の範囲は限定されており、NNLS に関する知識を習得すること、および NNLS に含まれる Novell 製品を実際に体験してみることを目的としています。

このガイドでは、次の方法について説明します。

- ◆ 新しい eDirectory™ ツリーに 1 つの NNLS サーバをインストールする
- ◆ そのサーバにすべての NNLS コンポーネントをインストールする
- ◆ 簡単なタスクを実行して基本的な NNLS サービスの理解を図る

複数の NNLS サーバをインストールする場合や、このガイドでの指定と異なるツリー構造を作成する場合でも、このガイドで説明されている基本的手順に従うと、NNLS サービスをラボ環境に設定できます。ただし、次のガイドの内容も参照することをお勧めします。

- ◆ 『*Novell Nterprise Linux Services インストールガイド*』
- ◆ 『*Novell Nterprise Linux Services 概要・プランニング・インプリメンテーションガイド*』

### マニュアルの表記規則

このマニュアルでは、不等号 (>) を使用して、操作手順の動作、およびクロスリファレンスパス内の項目を区切ります。

商標記号 (®、™ など) は、Novell の商標を示します。アスタリスク (\*) はサードパーティの商標を示します。

あるパス名を記述する際、あるプラットフォームでは円記号が使用され、別のプラットフォームではスラッシュが使用される場合は、Linux の表記規則に従い、スラッシュを使用してパス名を表記します。NetWare® のようにパス名を円記号で記述するプラットフォームでは、ソフトウェアの必要に応じて円記号を使用してください。





# 1

## Nterprise Linux Services のラボへのインストール

Novell® Nterprise™ Linux Services (NNLS) をラボ環境にインストールするには、このセクションの手順に従います。

このセクションでは、次の作業について説明します。

- ◆ 9 ページの「必要なラボ設定」
- ◆ 12 ページの「ダウンロードとインストールメディアの作成」
- ◆ 13 ページの「.iso イメージファイルのマウント」
- ◆ 14 ページの「サーバソフトウェアのインストール」

### 必要なラボ設定

このガイドで説明されている操作および演習を実行するには、次のような環境が必要です。

- 次の要件を満たす Linux サーバが用意されている必要があります。
  - ◆ サーバクラスのコンピュータである
  - ◆ Pentium\* II 以上のプロセッサを搭載している (Pentium 4、1.5GHz を推奨)
  - ◆ 512MB 以上 RAM を持つ (1GB を推奨)
  - ◆ 30GB 以上の空きディスク領域がある
  - ◆ 次のいずれかの Linux プラットフォームがインストールされている (いずれもサポート対象)
    - ◆ SuSE\* Linux Enterprise Server 8.0
    - ◆ Red Hat\* Enterprise Linux AS 2.1
    - ◆ Red Hat Enterprise Linux ES 2.1
  - ◆ 10 ページの「サーバインストール要件への準拠」で説明された Linux インストール要件に準拠している
  - ◆ gettext RPM がインストールされている
  - ◆ ラボのネットワークおよびインターネットへの IP 接続が可能
- Novell iPrint をテストする場合は、静的 IP アドレスが割り当てられたプリンタをラボのネットワークに接続する必要があります。
- また、iPrint のテストには、使用する Windows\* ワークステーションのタイプ (以下を参照) に適したプリンタのプリンタドライバも必要です。

- iPrint または GroupWise® Collaboration Client をテストするには、Internet Explorer 6 SP1 以降がインストールされていて、かつ次のいずれかのオペレーティングシステムを実行している Windows ワークステーションが 1 台以上必要です。

- ◆ Windows XP
- ◆ Windows 2000
- ◆ Windows NT\* 4
- ◆ Windows 95/98/ME

**重要:** GroupWise クライアントをテストする場合は、Windows ワークステーションに GroupWise クライアントがインストールされていないことを確認してください。クライアントがインストールされていると、このガイドのインストール手順は無効になります。

ワークステーションからクライアントを削除する場合は、Novell ディレクトリと、そのサブディレクトリおよびファイルも削除する必要があります。Novell ディレクトリは通常、ローカルハードドライブのルートに置かれています。

## サーバインストール要件への準拠

対象となるラボのサーバに Linux をインストールするときは、このセクションで説明する次のガイドラインに従います。

### 静的 IP アドレスを使用する

NNLS のインストールおよび環境設定メカニズムでは、ラボのサーバは、DHCP からアドレスを取得するのではなく、静的 IP アドレスを使用する必要があります。RedHat および SuSE のインストールでは、デフォルトで DHCP が使用されるため、IP アドレスの設定を手動で変更する必要があります。

### ホスト名のみを入力する

Linux のインストール中にホスト名を入力するように求められたときは、ホスト名に DNS ドメイン情報を含めないように注意してください。たとえば「mylinuxbox」という文字列のみを入力します。

ホスト名には DNS ドメイン情報(mylinuxbox.mylab.mycompany.com など)を含めません。

ホスト名にドメインを含めると、eDirectory およびその他の NNLS コンポーネントが正しくインストールされません。

## 事前にパーティションの計画を立てる

サーバのハードドライブにパーティションを作成するときは、表 1 で説明されている項目について計画する必要があります。

表 1 ラボサーバのパーティション要件

パーティション	最小ディスク容量	その他の注意点	予定の割り当て
/boot	*	* 選択したオペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。	
/swap	*	* 通常、サーバに装着されている RAM の 2 倍の容量 (上限は 1GB) を必要とします。  詳細については、選択したオペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。	
/	*	* このパーティションには、残りのすべてのディスク領域が含まれます。パーティションを拡張すると、サブパーティション (/var、/opt、/usr、/etc、/home) 用の領域が自動的に利用可能になります。	

## NNLS のインストール前に /etc/hosts を調べる

Linux をインストールしたら、NNLS 製品がサーバの IP アドレスを正しく解決できるようにするため、次の手順を実行する必要があります。

- 1 サーバの /etc/hosts ファイルを編集します。
- 2 次の行に *servername* 変数が存在する場合は、削除します。  

```
127.0.0.1 servername localhost.localdomain localhost
```

その結果、次のようになります。  

```
127.0.0.1 localhost.localdomain localhost
```
- 3 まだ存在しない場合は、hosts ファイルに次の行を追加します。

```
serverip fullyqualifiedhostname servername
```

ここで、*serverip* は NNLS サーバの IP アドレス、*fullyqualifiedhostname* はサーバの完全修飾ホスト名、*servername* はラボサーバのホスト名です。

たとえば、次のような行を /etc/hosts ファイルに追加します。

```
10.1.1.1 mylinuxbox.mylab.mycompany.com mylinuxbox
```

# ダウンロードとインストールメディアの作成

多くの Linux 製品と同様、Novell Nterprise Linux Services (NNLS) は Web からダウンロードします。以下では、ダウンロードするコンポーネントと、必要なファイルおよび CD メディアを用意する手順について説明します。

**重要:** このセクションの手順では、3つの操作すべてを同じワークステーション上 (Windows または Linux) で実行するものとします。複数のワークステーションを使用する場合やプラットフォームが混在する場合に必要なとなるコピーや検証については、取り上げません。

- 1 NNLSのコピーを入手するには、Novell 認定リセラー<sup>SM</sup>に問い合わせるか、Novell Web サイトの [Linux 製品ページ \(http://www.novell.com/ja-jp/products/linuxservices\)](http://www.novell.com/ja-jp/products/linuxservices) を参照してください。

次のファイルをダウンロードするための URL が記載された電子メールが送られてきます。

- ◆ インストール時に必要な eDirectory™ NICI 基本キーファイル (\*.nfk)  
eDirectory ライセンスファイル (\*.nlf) も送信されてきます。ただし、このファイルは NNLS のインストールには不要です。
- ◆ *Novell\_Nterprise\_Linux\_Services\_1.0.iso*  
NNLS を Linux サーバにインストールするためのファイルを格納した CD イメージが含まれています。
- ◆ *Novell\_Nterprise\_Linux\_1.0\_Companion\_CD.iso*  
次のものをインストールするためのファイルを格納した CD イメージが含まれています。
  - ◆ Novell GroupWise Collaboration Client for Windows
  - ◆ Windows および NetWare 用 Novell DirXML® ドライバ
  - ◆ Novell NetDrive クライアント

- 2 指示に従ってファイルをダウンロードします。

- 3 ファイルに含まれている MD5 ベースのチェックサムユーティリティを実行し、各 .iso ファイルの整合性を検証します。

たとえば Linux システムでは、次のコマンドを入力できます。

```
md5sum filename
```

ここで、*filename* は検証する .iso ファイルの名前です。

Windows システムでは、Windows と互換性のある MD5 ベースのチェックサムユーティリティを Web から入手して、そのユーティリティの使用手順に従う必要があります。

各ファイルの MD5 チェックサム値を [表 2](#) に示します。

表 2 MD5 チェックサム値

ファイル名	MD5 チェックサム値
Novell_Nterprise_Linux_Services_1.0.iso	7111fb9edd285af4a220d91517b6655a
Novell_Nterprise_Linux_1.0_Companion_CD.iso	d76a962e6773024cd5a0c8b9ae33f4a4

- 4 (状況によって実行) CDライターがない場合は、13 ページの「**.iso イメージファイルのマウント**」に進んでください。
- 5 CDライターとブランク CD2 枚を使用して、それぞれのイメージファイルから CD を作成します。
- 6 CD に次のようにラベルを付けます。  
Novell Nterprise Linux Services 1.0  
Novell Nterprise Linux Services 1.0 Companion CD

14 ページの「**サーバソフトウェアのインストール**」に進んでください。

## .iso イメージファイルのマウント

前のセクションで NNLS CD を作成した場合は、14 ページの「**サーバソフトウェアのインストール**」に進んでください。

CDライターを利用できない場合でも、次の指示に従うと、Linux サーバにソフトウェアをインストールできます。ただし、次のコンポーネントは NNLS Companion CD を必要とするため、インストールしてテストすることはできません。

- ◆ GroupWise Collaboration Client。51 ページの「**GroupWise Collaboration クライアントを使用した NetMail へのアクセス**」を参照してください。
- ◆ Novell NetDrive。53 ページの「**NetDrive**」を参照してください。
- ◆ Novell DirXML ドライバ。このガイドではインストールおよびテストされません。24 ページの「**DirXML および DirXML スタータパックに関する注意**」を参照してください。

Linux サーバに .iso ファイルをマウントするには、次の手順に従います。

- 1 *Novell\_Nterprise\_Linux\_Services\_1.0.iso* ファイルを NNLS サーバにコピーします(まだコピーしていない場合)。次に、12 ページの**ステップ 3** の手順に従って MD5 チェックサム値を検証します。
- 2 NNLS サーバのシェルまたはターミナルウィンドウに、root ユーザとしてアクセスします(まだアクセスしていない場合)。
- 3 サーバのファイルシステム上に、イメージのマウントポイントとなるディレクトリを作成します。

SuSE システムの場合は、次のコマンドを入力します。

```
mkdir /media/iso
```

Red Hat システムの場合は、次のコマンドを入力します。

```
mkdir /mnt/iso
```

- 4 次のいずれかのコマンドを入力して、ISO イメージをマウントします。

SuSE システムの場合は、次のコマンドを入力します。

```
mount -o loop /file_path_and_filename /media/iso
```

Red Hat システムの場合は、次のコマンドを入力します。

```
mount -o loop /file_path_and_filename /mnt/iso
```

ここで、*file\_path\_and\_filename* は**ステップ 1** でサーバにコピーされた ISO イメージファイルへのパスです。

# サーバソフトウェアのインストール

## 必要条件

Novell Nterprise Linux Services (NNLS) を Linux サーバにインストールするには、次の作業を完了しておく必要があります。

- ❑ NNLS のインストール先となる Linux サーバが **9 ページの「必要なラボ設定」**の要件を満たしていることを確認します。
- ❑ **12 ページの「ダウンロードとインストールメディアの作成」**の手順に従って、インストール用ソフトウェアを用意します。

## 手順

- 1 NNLS サーバのシェルまたはターミナルウィンドウに、root ユーザとしてアクセスします (まだアクセスしていない場合)。
- 2 (状況によって実行) マウントした .iso イメージファイルからインストールする場合は、システムプロンプトが表示されたら、次のコマンドを入力します。

```
cd /mnt/iso
```

ステップ 5 に進んでください。

- 3 *Novell Nterprise Linux Services 1.0* CD を Linux サーバに挿入し、システムのコマンドを入力してマウントします。

SuSE サーバの場合は、次のコマンドを入力します。

```
mount /media/cdrom
```

Red Hat サーバの場合は、次のコマンドを入力します。

```
mount /mnt/cdrom
```

- 4 サーバのインストールディレクトリに移動します。

SuSE サーバの場合は、次のコマンドを入力します。

```
cd /media/cdrom
```

Red Hat サーバの場合は、次のコマンドを入力します。

```
cd /mnt/cdrom
```

- 5 次のコマンドを入力して、インストールスクリプトを開始します。

```
./install.sh
```

- 6 次の表のプロンプトが表示されたら、指示された操作を実行します。

プロンプト	アクション
Selection [install]: ( 選択 [インストール] :)	<Enter> を押します。
Express install [no]: ( 高速インストール [いいえ] :)	<Enter> を押します。
Selection [finish]: ( 選択 [終了] :)	<Enter> を押します。

プロンプト	アクション
--More-- (-- 続き --)	スペースキーを使用してスクロールし、使用許諾書を読みます。
Agree to license (y/n): (ライセンスに同意する (y/n)):	「y」と入力します。
Please select the NCI Foundation Key (.nfk) file [/mnt/floppy]: (NICI 基本キー(.nfk) ファイルを選択してください [/mnt/floppy] :)	12 ページの「ダウンロードとインストールメディアの作成」の指示に従って Novell から入手した、NICI 基本キーファイルへのパスおよびファイル名を入力します。
Selection [New Tree]: ( 選択 [新規ツリー] :)	<Enter> を押します。
Enter the new tree name: ( 新しいツリー名を入力してください :)	「acme_tree」と入力します。
Enter the eDirectory server port [524]: (eDirectory サーバポートを入力してください [524] :)	<Enter> を押します。
Enter the FDN admin name with context (i.e. cn=admin.o=novell): (FDN admin 名をコンテキストとともに入力してください (i.e. cn=admin.o=novell):)	「cn=admin.o=acme」と入力します。
Enter the Admin password: (Admin パスワードを入力してください :)	後で思い出せるパスワードを入力します。
Re-type password: (パスワードを再入力してください :)	同じパスワードを再入力します。
Enter the server context [o=acme]: (サーバコンテキストを入力してください [o=acme] :)	「ou=servers.ou=lab.o=acme」と入力します。
Enter the LDAP port number [389]: (LDAP ポート番号を入力してください [389] :)	<Enter> を押します。
その他のプロンプト	NetMail™ サーバのドメイン名を要求するプロンプトが表示されるまで、プロンプトに応じて <Enter> を押します。
Enter the Domain Name for the NetMail Server (NetMail サーバのドメイン名を入力してください :)	サーバの DNS 名と完全な DNS コンテキストを入力します。たとえば、「myserver.mycompany.com」と入力します。
その他のプロンプト	Red Carpet のインストール情報を収集していることを知らせるメッセージが表示されるまで、プロンプトに応じて <Enter> を押します。
Enter the e-mail address [admin_name@company_name.com]: (電子メールアドレスを入力してください [admin_name@company_name.com] :)	NNLS のアップデートのために登録する場合は、電子メールアドレスを入力します。
Web プロキシサーバに関する質問	Linux サーバのプロキシに関する質問に答えます。

プロンプト	アクション
View summary information [yes]: ( 概要情報を表示します [はい] :)	<Enter> を押して概要を表示するか、「n」と入力して <Enter> を押します。
Do you want to make any changes? [no]: ( 変更はありますか？ [いいえ] :)	<Enter> を押すか、「y」と入力して <Enter> を押し、変更します。

すべての NNLS コンポーネントが Linux サーバにインストールされます。

- 7 **readme** ファイルを表示するかどうかを確認するプロンプトが表示されたら、「n」と入力します。
- 8 環境設定ファイルを保存するかどうかを確認するプロンプトが表示されたら、「y」と入力します。

この環境設定ファイルを使用して応答ファイルを作成し、以後の非対話型インストールに使用することもできます。応答ファイルの詳細については『*Novell Nterprise Linux Services インストールガイド*』の「非対話型のクイックインストールまたはカスタムインストールの実行」を参照してください。

## 次の手順

NNLS インストールの設定を開始するには、2 章「**eDirectory とアイデンティティサービス**」(17 ページ)に進んでください。



# 2

## eDirectory とアイデンティティサービス

Novell® eDirectory™ は Novell Nterprise™ Linux Services (NNLS) の中核をなす主要コンポーネントで、次の機能を備えています。

- ◆ 中央集中型のアイデンティティ管理
- ◆ ネットワークサーバとそのサービスを管理するための基盤となるインフラストラクチャ
- ◆ ファイアウォール内と Web からの両方のアクセスセキュリティ

このガイドで取り上げるインストールのシナリオでは、NNLS のテストおよび学習用として、*ACME\_TREE* という名前の新しい eDirectory ツリーが作成されます。このツリーとその内部オブジェクトの操作を習得すると、eDirectory の果たす役割を理解しやすくなります。

このセクションでは、次の項目について説明します。

- ◆ 17 ページの「このガイドでの eDirectory 情報の使用」
- ◆ 18 ページの「ラボの eDirectory ツリー」
- ◆ 22 ページの「ユーザおよびグループのコンテキストの作成」
- ◆ 22 ページの「Linux User Management (LUM) 用グループオブジェクトの作成」
- ◆ 23 ページの「ユーザ (eDirectory ユーザオブジェクト) の作成」

### このガイドでの eDirectory 情報の使用

実際の稼働環境に NNLS をインストールするときは、あらかじめツリーのプランニングと設計について入念に検討することが不可欠です。

ただし、このガイドでは、ユーザ側でこのようなプランニングを行う必要はありません。このガイドで使用される eDirectory オブジェクトの一部は、1 章「Nterprise Linux Services のラボへのインストール」(9 ページ) で作成されたものです。

次のセクションでは、eDirectory の概要を説明しています。

すでに eDirectory の知識があり、プランニングについての説明を読む必要がない場合は、次の手順に従ってください。

1. このガイドで使用される eDirectory ツリー構造 (18 ページの 図 1) を確認します。
2. 22 ページの「ユーザおよびグループのコンテキストの作成」に進みます。

# eDirectory のプランニングの概要

効率的でわかりやすい eDirectory を設計するには、次の点を考慮する必要があります。

- ◆ 使用するネットワークのレイアウト
- ◆ 組織の構造

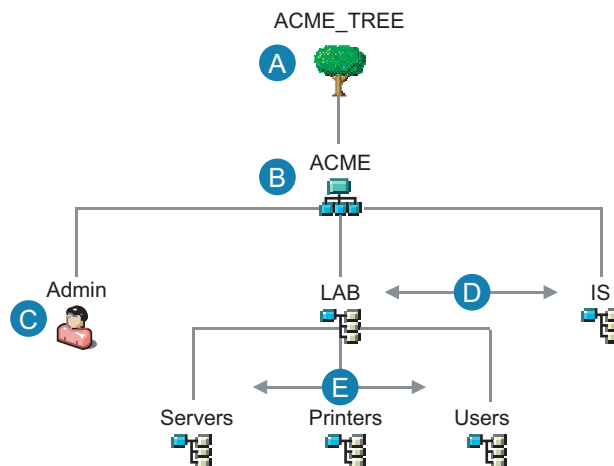
『Novell eDirectory 8.7.3 管理ガイド』の「Novell eDirectory ネットワークの設計」で説明されている問題と設計上の注意点について、十分検討する必要があります。

## ラボの eDirectory ツリー

図 1 は、このガイドの演習で使用する eDirectory ツリーの例を示しています。また、eDirectory ツリーの設計時に考慮すべき基本的な要素も示しています。

注：IS 部門オブジェクトはこのガイドでは作成されませんが、説明用に記載されています。

図 1 ラボの eDirectory ツリー



この図は、ツリーの計画時に検討すべき基本要素を示しています。

**A** ツリーオブジェクトは、ツリー内の最上位のコンテナオブジェクトです。一般に、ツリーオブジェクトには、自分の会社や所属組織を表す組織オブジェクト(インストール時にO=nameで指定)が含まれます。

**B** 組織オブジェクトは通常、ツリーオブジェクトの直下にある(多くの場合唯一の)コンテナオブジェクトです。一般に、組織オブジェクトには、組織を表す名前が付けられます。

小規模な組織では、その他のオブジェクト(ユーザ、プリンタ、サーバなど)をすべて組織オブジェクトの直下に配置することにより、管理を簡素化します。

部門やその他の組織単位を持つ大規模な組織では、実際の組織の構造を反映させたツリー構造を構築するのが一般的です。

このラボの例に示すように、大規模な組織では、部門、部署、所在地などを反映させた部門オブジェクト(OU=nameで指定)を作成することにより、論理的な構造を構築します。

また、個別の事業単位や子会社などを表す複数の組織オブジェクトをツリーオブジェクトの下に作成する場合があります。

**C** 各ツリーには、Adminという名前のユーザオブジェクトが必要です。他のユーザオブジェクトを作成またはインポートしたり、ツリー構造の残りの部分を作成するには、Adminとしてログインします。

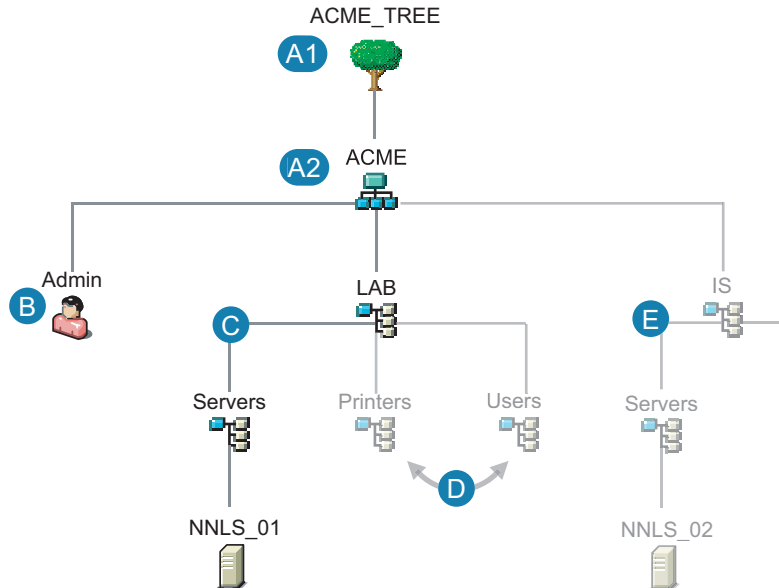
**D** この例では、部門レベルに2つの部門オブジェクト(LABおよびIS)を作成しています。

**E** また、部門オブジェクトをネストすることによって、組織管理に必要とされる複雑な階層構造を適切に示しています。

## 現在のラボツリー

図 2 は、NNLS をラボにインストールすることによって作成した eDirectory ツリーを示しています。淡色で表されているオブジェクトは説明用のオブジェクトで、現在のツリーには存在しません。このガイドで説明されている手順に従うと、ツリーは 18 ページの 図 1 のようになります。

図 2 現在のラボツリー



**A** NNLSのインストールプロセスでは、次のオブジェクトを指定する必要があります。

- A1** ツリーオブジェクト
- A2** 組織オブジェクト

**B** 初期インストール中に指定する最初のオブジェクトのうち、1つはAdminユーザです。

組織コンテナオブジェクト  
(cn=admin.o=*your\_organization\_name*)内にAdminが作成されるように、インストールスクリプトで指定する必要があります。

また、初期インストール時には、ユーザオブジェクト(管理者、プロキシユーザなど)を必要とするパラメータごとにAdminを指定する必要があります。

**C** NNLSインストールプロセスでは、NNLSサーバオブジェクト(NNLS\_01)に対するコンテキストを定義する部門オブジェクトも作成できます。

**D** ツリーに含める予定のその他の部門オブジェクトはすべて、インストールの完了後に作成する必要があります。

**E** ただし、後続のインストール時に追加コンテキスト(IS > Serversなど)を作成することにより、ツリーにインストールするその他のNNLSサーバ(NNLS\_02など)を含めることもできます。

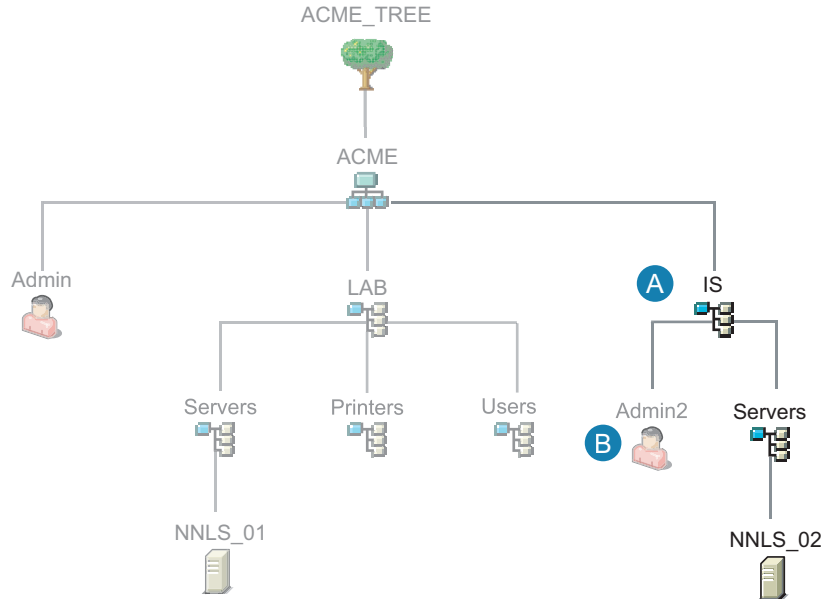
## ラボツリーの拡張

このガイドでは、ツリーに NNLS サーバを 1 台のみインストールする場合の構成を説明します。

ツリーに追加サーバをインストールする場合は、[図 3](#) で説明されているような準備作業が必要です。

すでに述べたように、追加サーバのインストールについてはこのラボガイドでは取り上げません。詳細については、『*Novell Nterprise Linux Services インストールガイド*』の「[初期インストール後の install.sh の実行](#)」を参照してください。

図 3 拡張したツリー



A 同じツリーに対する後続のインストールでは、新しい部門オブジェクトを作成することにより、インストール予定の NNLS サーバに対するコンテキストを指定できます。

B NNLS インストールパラメータでその他の管理者を指定する場合は、インストールの開始前にユーザオブジェクトを作成し、パラメータに関して必要とされるすべての権利と許可をそのオブジェクトに割り当てる必要があります。

注意: この図では、IS 部門オブジェクトはインストール時に作成されたものとして示されています。ただし、後続のインストール時に Admin2 ユーザオブジェクトを作成して使用する場合は、インストールの実行前に、IS コンテナオブジェクトも作成する必要があります。

# iManager へのアクセス

Novell iManager は、主に eDirectory サービスと NNLS サービスの管理に使用されるブラウザベースのツールです。

iManager を起動し、後続のセッションで使用できるようにブラウザを設定するには、次の手順に従います。

- 1 ブラウザに次の URL を入力し、iManager を起動します。

**http://IP\_or\_DNS/nps/iManager**

IP\_or\_DNS は、NNLS サーバの IP アドレスまたは DNS 名です。

ネットワーク上に DNS 名を持つサーバの場合は、NNLS をインストールすると、この DNS 名が使用され、サーバの SSL 証明書が作成されます。NNLS へのアクセス URL には、常にこの DNS 名を使用することをお勧めします。

- 2 (状況によって実行)セキュリティの警告(一般には証明書がブラウザから信頼されないことを示すポップアップメッセージ)が表示されない場合は、**22 ページの「ユーザおよびグループのコンテキストの作成」**に進みます。

セキュリティの警告が表示される原因としては、NNLS サーバの証明書を発行した eDirectory 認証局 (CA) が有効な CA としてブラウザに認識されない、ということが考えられます。

その場合、次のような方法があります。

- ◆ 警告が表示されるたびに [はい] をクリックして続行します。  
この方法を選択する場合は、**22 ページの「ユーザおよびグループのコンテキストの作成」**に進んでください。
- ◆ CA の証明書(ルート証明書)をインポートすることにより、以後のブラウザ使用時にこのメッセージが表示されないようにします。  
この方法を選択する場合は、**ステップ 3**に進んでください。
- ◆ ブラウザで認識されるサードパーティの CA からサーバ証明書を購入し、インストールします。  
この手順については、このガイドでは取り上げません。詳細については、Linux プラットフォームのマニュアルと、『**Novell eDirectory 8.7.3 管理ガイド**』の「**サードパーティプロバイダの証明書を使用する**」を参照してください。




- 3 [セキュリティの警告] ダイアログボックスで、[証明書の表示] をクリックします。
- 4 [証明書のインストール] > [次へ] の順にクリックします。
- 5 [すべての証明書を次のストアに配置する] オプションを選択します。
- 6 [参照] をクリックします。
- 7 [信頼されたルート証明機関] を選択します。
- 8 [OK] > [次へ] > [完了] の順にクリックします。
- 9 証明書をルートストアに追加してもよいことを確認します。
- 10 [OK] > [OK] > [はい] の順にクリックします。

## ユーザおよびグループのコンテキストの作成

NNLS 製品ではいずれも、システム上のユーザを表すユーザオブジェクトを作成する必要があります。Linux User Management コンポーネントと Samba コンポーネントでは、ユーザを割り当てることのできるグループオブジェクトも作成してください。

18 ページの「eDirectory のプランニングの概要」の図 2 と図 3 には、Users という名前の部門オブジェクトがあります。通常は、ユーザオブジェクトやグループオブジェクトなどのユーザ関連オブジェクトを格納する部門オブジェクトを 1 つ以上作成しておくとう便利です。

次の手順に従って、lab 部門オブジェクトに Users という名前の部門コンテナオブジェクトを作成します。




- 1 iManager に Admin としてログインします。
- 2 [オブジェクトの表示] アイコン  をクリックします。
- 3 左側の画面で、acme 組織オブジェクト  の横にある下矢印  をクリックします。
- 4 [lab] をクリックし、ドロップダウンリストから [オブジェクトの作成] を選択します。
- 5 [使用可能なオブジェクトクラス] リストから [部門] を選択し、[OK] をクリックします。
- 6 [Organizational Unit name (部門名)] フィールドに「Users」と入力します。
- 7 [OK] をクリックします。

iManager は閉じないでください。次のセクション「Linux User Management (LUM) 用グループオブジェクトの作成」に進んでください。

## Linux User Management (LUM) 用グループオブジェクトの作成

NNLS サーバまたは Linux ワークステーションで PAM 対応サービス (login や Passwd など) を使用することを eDirectory ユーザに許可する場合は、Linux User Management (LUM) をインストールする必要があります。

LUM は、NNLS サーバから Samba (Windows CIFS/SMB) ファイルサービスを利用することを eDirectory ユーザに許可する場合にも必要です。

- 1 前のセクションのステップ 7 に続いて、lab  の横にある下矢印  をクリックします。
- 2 [Users] をクリックし、ドロップダウンリストから [グループの作成] を選択します。
- 3 [グループ名] フィールドに「LUMUsers」と入力します。
- 4 [OK] > [OK] の順にクリックします。
- 5 [Linux Config] フィールドの横にある [参照] アイコン  をクリックします。
- 6 [オブジェクトセレクタ] ウィンドウで、acme オブジェクトの横にある下矢印をクリックします。
- 7 [UNIX Config] をクリックします。
- 8 iManager のメインウィンドウで、[OK] > [OK] の順にクリックします。




iManager は閉じないでください。次のセクション「ユーザ (eDirectory ユーザオブジェクト) の作成」に進んでください。

# ユーザ (eDirectory ユーザオブジェクト) の作成

演習用として、表 3 に示されているユーザを作成する必要があります。

表 3 作成するユーザ

フィールド名	ユーザ 1	ユーザ 2	ユーザ 3	その他のユーザ
ユーザ名 :	ajohns	bjohnson	cmartin	NNLS ファイルサービスの中には、eDirectory のユーザ名とパスワードが Windows へのログインに使用されるユーザ名およびパスワードと同じである場合は、それらを使用せずに Windows からアクセスできるものがあります。  このようなファイルサービスをテストするには、ラボの Windows ワークステーションへのログインに使用する Windows ユーザと一致する eDirectory ユーザを作成します。  また、この表にある3つの eDirectory ユーザ名と一致する Windows ユーザを作成することもできます。
名 :	Arnold	Bobby	Chris	
姓 :	Johns	Johnson	Martin	

- 1 前のセクションの **ステップ 8** に続いて、左の画面で [Users] をクリックし、ドロップダウンリストから [ユーザの作成] を選択します。
- 2 [ユーザ名] フィールドに、表 3 に記載されているユーザ名を入力します。
- 3 表 3 に従って、ajohns の名 (オプション) と姓 (必須) を入力します。
- 4 [ホームディレクトリの作成] はオンにしないでください。  
これは NetWare 専用のオプションです。
- 5 [パスワード] フィールドと [パスワードを再入力してください] フィールドの両方に同じパスワードを入力します。  
**表 3** で説明したように、作成中のユーザを Windows ユーザと一致させる場合は、このパスワードが Windows のパスワードと一致するように注意してください。
- 6 [単純パスワードの設定] はオンにしないでください。  
これは NNLS には不要です。
- 7 (オプション) 必要に応じて、eDirectory の検索結果に表示させる役職やその他の情報を入力します。
- 8 [OK] > [OK] の順にクリックします。
- 9 [参照] アイコン  をクリックし、そのユーザのプライマリグループを指定します。
- 10 [オブジェクトセクタ] ウィンドウで、lab オブジェクトの横にある下矢印  をクリックします。
- 11 Users オブジェクトの横にある下矢印  をクリックします。
- 12 [LUMUsers] をクリックします。

**13** Samba 設定は変更しないでください。

変更すると Samba パスワードが設定されず、このガイドで指示する Samba 関係の操作ができなくなります。

**14** [OK] > [OK] の順にクリックします。

**15** 表 3 に記載されているその他のユーザや、新たなユーザオブジェクト (作成する場合) について、この手順を繰り返します。

## DirXML および DirXML スタータパックに関する注意

ユーザ情報が格納されているディレクトリが組織内に複数存在する場合は、Novell DirXML<sup>®</sup> の導入を検討する必要があります。Novell Nterprise Linux Services には、DirXML スタータパックが含まれています。このスタータパックは、NT ドメイン、Active Directory\* ドメイン、および eDirectory ツリーに保存されている情報の同期をサポートしているほか、フル機能版 DirXML 製品に含まれる評価版ドライバ (ディレクトリおよびデータベース用) も備えています。

ユーザオブジェクトは、このセクションの手順に従って作成することもできますが、eDirectory にインポートすることもできます。また、DirXML を使用して、別々のデータベースに格納されているすべてのユーザデータを (パスワードも含めて) 相互に同期させることも可能です。

あるシステムのデータに変更が加えられると、DirXML はそれを検出し、定義されたビジネスポリシーに基づいて、接続されている他のシステムに変更内容を伝達します。

ラボガイドは、DirXML 関連マニュアルに含まれ、スタータパックとフル機能版 DirXML 製品の学習ガイドとして使用できます。詳細については、Novell Nterprise Linux Services 用の『[DirXML スタータパック 1.0 ラボガイド](#)』を参照してください。

## 次の手順

ラボで使用するユーザオブジェクトをすべて作成したら、3 章「[NNLS 上での Samba \(Windows ファイルサービス\)](#)」(25 ページ)に進みます。



# 3

## NNLS 上での Samba (Windows ファイルサービス)

Samba は、Linux コンピュータやその他のプラットフォームで Microsoft\* SMB/CIFS ネットワーキングプロトコルを使用できるようにする、オープンソースの無料ソフトウェアスイートです。Windows ユーザが Samba を使用すると、Windows ファイルサーバにアクセスする場合と同じように、Novell<sup>®</sup> Nterprise™ Linux Services (NNLS) サーバにアクセスできるようになります。

Samba は、GNU General Public License があれば無料で入手できます。

このセクションでは、次の項目について説明します。

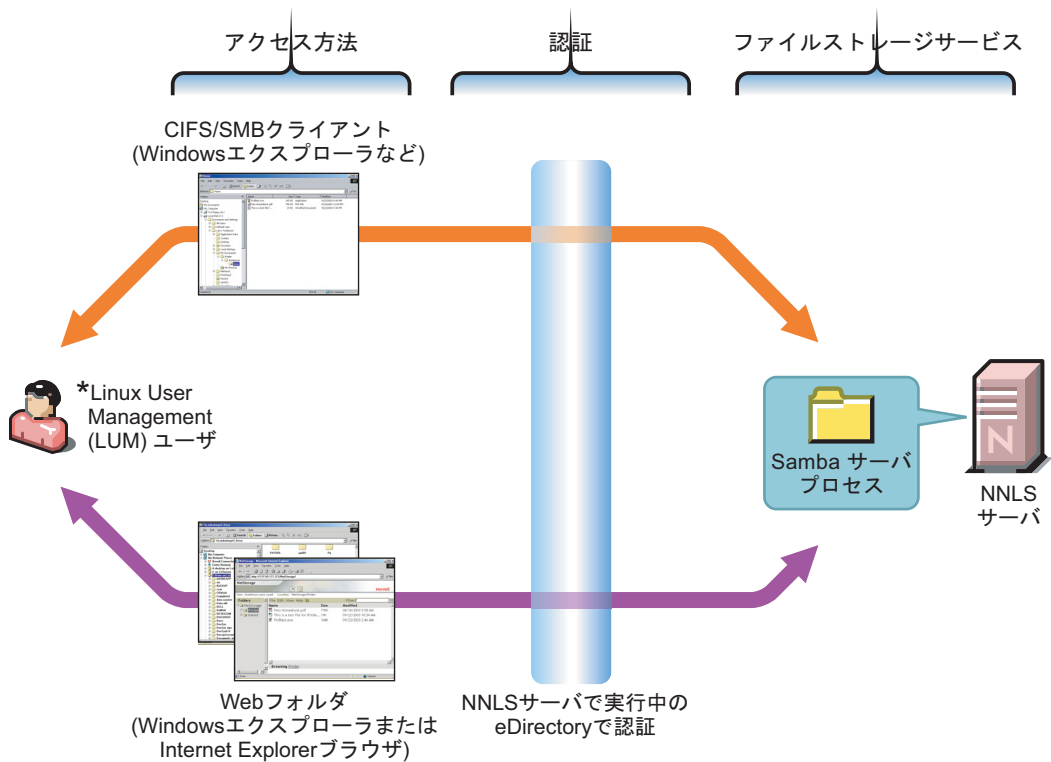
- ◆ [25 ページの「概要」](#)
- ◆ [26 ページの「Samba のユーザホームディレクトリの作成」](#)

### 概要

図 4 は、[26 ページの「Samba のユーザホームディレクトリの作成」](#)の手順を完了したときに利用可能になるファイルサービスを示しています。

NNLS での Samba ファイルサービスの詳細については、『[Novell Nterprise Linux Services 概要・プランニング・インプリメンテーションガイド](#)』の「[NNLS の Samba](#)」を参照してください。

図 4 NNLS 上での Samba



## Samba のユーザホームディレクトリの作成

23 ページの「ユーザ (eDirectory ユーザオブジェクト) の作成」で説明されているユーザオブジェクトの作成手順では、Samba設定を変更しないように指示されています(24 ページのステップ 13)。この指示に従うと、作成されたユーザオブジェクトから NNLS 上の Samba にアクセスできるようになります。

ただし、ユーザが Samba にアクセスするには、まず Linux サーバのシェルプロンプトから各ユーザにログインし、ホームディレクトリを作成する必要があります。

- 1 root ユーザとしてログインし、NNLS サーバのシェルプロンプトにアクセスします。

Linux 管理者の多くは Linux サーバにグラフィカルユーザインタフェース (GUI) をロードせず、常にシェルプロンプトで作業を行います。

GUI を実行している場合は、<Ctrl>+<Alt>+<F1> を押すとシェルプロンプトにアクセスできます。

**重要:** この手順は、GUI 内から起動したシェルプロンプトや、SSHセッションなどのリモートセッションからは実行しないでください。このようにして実行すると、ホームディレクトリの作成処理は失敗します。

- 2 23 ページの「ユーザ (eDirectory ユーザオブジェクト) の作成」の説明に従って作成したユーザ名とパスワードを入力し、シェルプロンプトにログインします。  
ホームディレクトリが作成されたことを示すメッセージが表示されます。
- 3 システムプロンプトが表示されたら、「**exit**」と入力します。

- 4 Samba サービスへのアクセスを許可する各ユーザオブジェクトについて、**ステップ 2** および **ステップ 3** を繰り返します。
- 5 (状況によって実行)すべての Samba ユーザについてホームディレクトリの作成が完了したら、GUI を実行している場合は <Ctrl>+<Alt>+<F7> を押して GUI 画面に戻ります。

## 次の手順

この時点で Samba ファイルサービスのテストを実施する場合は、**49 ページ**の「**Samba (Windows ファイルサービス) の使用**」に進んでください。

それ以外の場合は、**4 章「メッセージングサービス」(29 ページ)**に進んでください。



# 4

## メッセージングサービス

Novell® Nterprise™ Linux Services (NNLS) には、次の 2 つの Novell 電子メール製品が含まれています。

- ◆ **NetMail™ 3.5:** 柔軟でパワフルな電子メールサーバです。次の機能をサポートしています。
  - ◆ 標準の電子メール機能
  - ◆ カレンダー、スケジュール、ビジネサーチ
  - ◆ タスク、メモ、その他
- ◆ **GroupWise® 6.5 Collaboration Client:** Novell の定評ある GroupWise 6.5 製品の最新クライアントです。NetMail 3.5 サーバとの連携が強化されています。

このセクションでは、次の項目について説明します。

- ◆ [29 ページの「概要」](#)
- ◆ [30 ページの「Users 用の NetMail の設定」](#)
- ◆ [31 ページの「NetMail アドレス帳の設定」](#)
- ◆ [32 ページの「GroupWise 6.5 Collaboration Client のインストール」](#)

### 概要

[30 ページの 図 5](#) は、この後のセクションの手順を完了したときに利用可能になる電子メールサービスを示しています。

NNLS での NNLS 電子メールサービスの詳細については、『*Novell Nterprise Linux Services 概要・プランニング・インプリメンテーションガイド*』の「**Novell NetMail 3.5 と GroupWise 6.5 Collaboration Client**」を参照してください。

図 5 NNLS 上での電子メールサービス

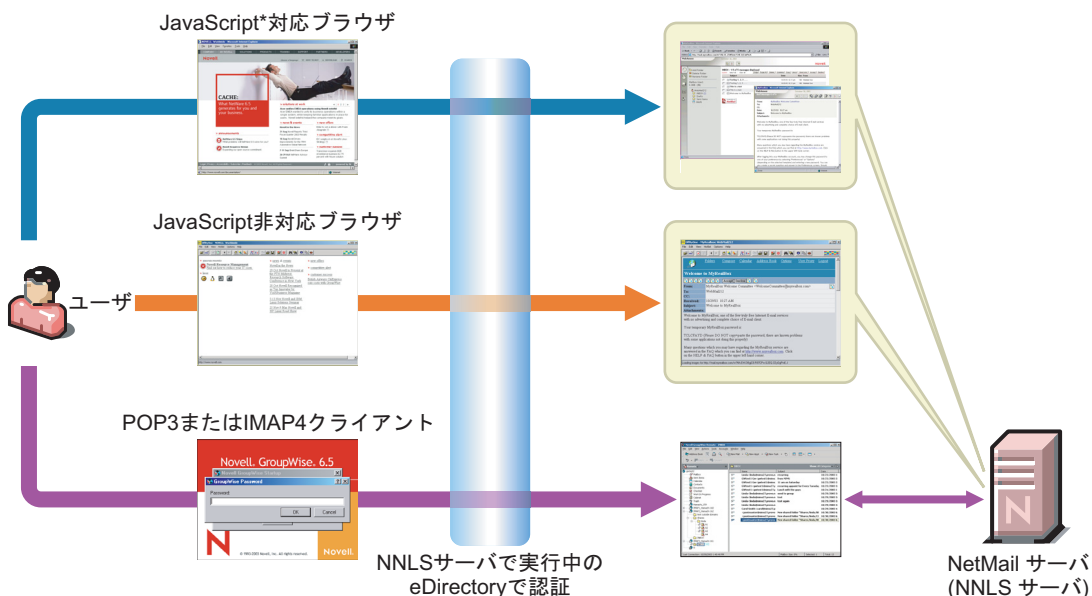


図 5 に示された電子メールサービスを NNLS サーバで利用できるようにするには、次のセクションの手順を実行する必要があります。

注: このガイドの演習では、同じ NNLS サーバ上のユーザが相互にメッセージを交換するという単純なケースを取り上げます。




インターネット経由で電子メールをやり取りするケースをテストする場合は、正式なドメイン名を使用し、『Novell NetMail 3.5 Administration Guide』の「SMTP Agent」の手順に従って SMTP エージェントを設定してください。


ラボ内の各システム間での SMTP メール転送をテストする場合も、エージェントを設定する必要があります。正式なドメイン名を使用する必要はありません。ラボで使用している LAN の DNS サーバのみが必要です。

## Users 用の NetMail の設定


このセクションでは、Users コンテナオブジェクトと連携するように、eDirectory™ の NMAP エージェントを設定します。

NMAP エージェントは、メッセージがメッセージキューに入ってからユーザのメールボックスに配信されるまで、またはインターネット経由で配信するために送り出されるまで、すべてのメッセージ処理と配信を管理します。各メッセージングシステムには少なくとも 1 つの NMAP エージェントが必要です。また、メッセージングシステム内のユーザはすべて、NMAP エージェントのいずれかのコンテキストに含まれている必要があります。

- 1 iManager で、[役割およびタスク] アイコン  をクリックします。
- 2 [NetMail Management] > [NetMail Management の起動] の順にクリックします。
- 3 [参照] アイコン  をクリックします。
- 4 上矢印アイコン  を 2 回クリックし、[Web Administration Server (Web 管理サーバ)] オブジェクトをクリックします。
- 5 [OK] をクリックします。
- 6 証明書の警告が表示されたら、[はい] をクリックします。

- 7 Novell WebAdmin で、[Internet Services ( インターネットサービス )] の横にあるプラス記号 (+) をクリックします。
- 8 [Messaging Server ( メッセージングサーバ )] オブジェクトの横にあるプラス記号 (+) をクリックします。
- 9 [NMAP Agent (NMAP エージェント )] をクリックします。
- 10 右側のウィンドウで、[コンテキスト] タブをクリックします。
- 11 [参照] アイコン  をクリックします。
- 12 [参照] ウィンドウで、acme 組織オブジェクトの横にあるプラス記号 (+) をクリックします。
- 13 lab コンテナオブジェクトの横にあるプラス記号 (+) をクリックします。
- 14 Users ( プラス記号ではなく名前 ) をクリックします。
- 15 [保存] をクリックします。  
ユーザのコンテキストが [Managed Contexts ( 管理されているコンテキスト )] リストに表示されます。
- 16 [保存] をクリックします。
- 17 ページ上部にあるタブの右側に [成功] メッセージが表示されることを確認します。

## NetMail アドレス帳の設定

- 1 前のセクションの **ステップ 17** に続いて、左の画面で Modular Web エージェントの横にあるプラス記号 (+) をクリックします。
- 2 [IMS Mail Module (IMS メールモジュール)] をクリックします。
- 3 [パーソナル] の [アドレス帳] セクションで、[使用可能] をオンにします。
- 4 [システム全体] で、[使用可能] をオンにします。
- 5 [使用不可] オプションの下にある空フィールドに、NNLS サーバの IP アドレスと「:52389」を続けて入力します。
- 6 [保存] をクリックします。
- 7 [終了] アイコン  をクリックして WebAdmin を終了し、ウィンドウを閉じます。
- 8 NNLS サーバのシェルプロンプトが表示されたら、次のコマンドを入力します。

```
/etc/init.d/novell-netmail stop  
  
/etc/init.d/novell-netmail start
```

この時点で NetMail サービスのテストを実施する場合は、50 ページの「ブラウザを使用した NetMail へのアクセス」に進んでください。

それ以外の場合は、次のセクション「GroupWise 6.5 Collaboration Client のインストール」に進んでください。

## GroupWise 6.5 Collaboration Client のインストール

ラボのWindowsワークステーションにコラボレーションクライアントをインストールするには、次の手順に従います。

- 1** Windows ワークステーションに、*Novell Nterprise Linux Services Companion CD* を挿入します。
- 2** [スタート] > [ファイル名を指定して実行] の順にクリックします。
- 3** Companion CDのGroupwise\_Nterprise\_Linux\win32ディレクトリに移動して、*setup.exe* を実行します。
- 4** ソフトウェアのインストール中に次の操作を実行します。
  - 4a** [スタートアップフォルダソフトウェアの選択] ダイアログボックスで、[GroupWise お知らせ君] の選択を解除します。
  - 4b** [Software Integrations (ソフトウェアの統合)] ダイアログボックスで、すべてのソフトウェアプログラムの選択を解除します。
  - 4c** [セットアップ完了] ダイアログボックスで、GroupWise を起動するオプションをオフにします。
  - 4d** [完了] をクリックします。
- 5** デスクトップで [GroupWise] アイコンを右クリックし、[プロパティ] をクリックします。
- 6** [ターゲット] フィールドに、スペースと「/pr-c:\remote\_mailbox」を続けて入力します。*remote\_mailbox* はローカルハードドライブ上のディレクトリパスで、このディレクトリ内に GroupWise データベースが作成および保存されます。
- 7** [OK] をクリックします。

### 次の手順

この時点で GroupWise クライアントのテストを実施する場合は、[51 ページの「GroupWise Collaboration クライアントを使用した NetMail へのアクセス」](#)に進んでください。

それ以外の場合は、[5 章「Novell iFolder」\(33 ページ\)](#)に進んでください。



# 5

## Novell iFolder

Novell iFolder<sup>®</sup> は、Novell<sup>®</sup> Nterprise<sup>™</sup> Linux Services (NNLS) の重要なファイルサービスコンポーネントです。これを使用すると、ローカルアクセスが可能なファイルのマスターコピーを保存するための Web ベースおよびネットワークベースのリポジトリ (iFolder サーバ) を構築できます。

このセクションでは、次の項目について説明します。

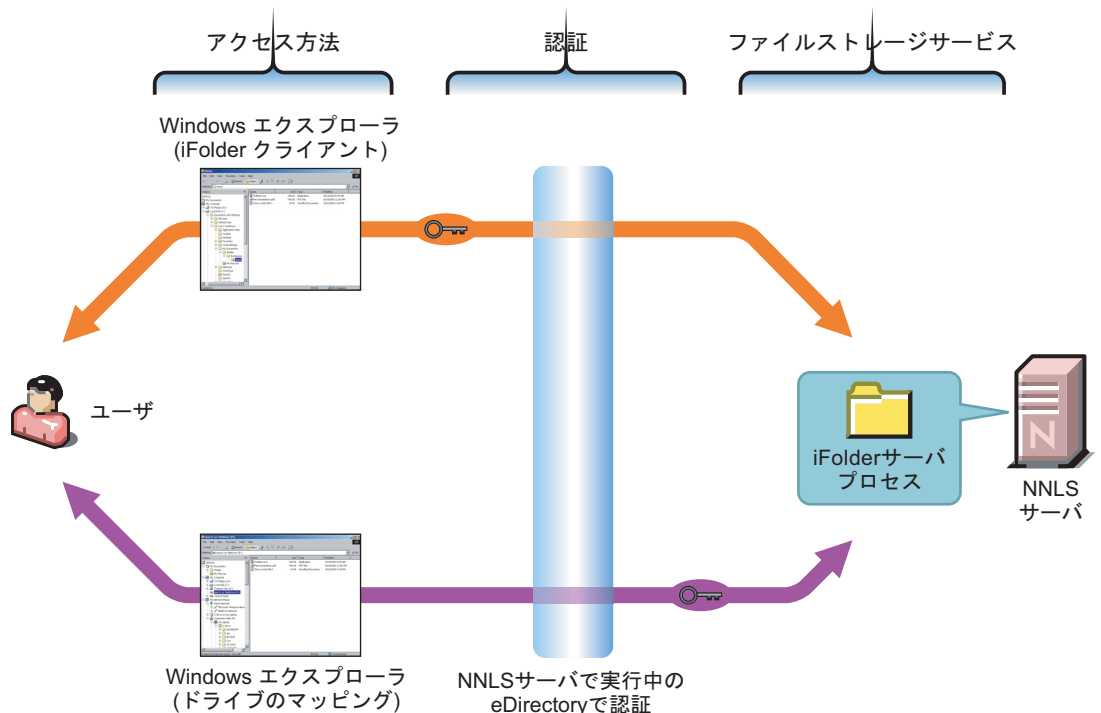
- ◆ 33 ページの「概要」
- ◆ 34 ページの「ユーザ検索コンテキストの設定」
- ◆ 34 ページの「iFolder ユーザの有効化」

### 概要

図 6 は、この後のセクションの手順を完了したときに利用可能になるファイルサービスを示しています。

NNLS での iFolder ファイルサービスの詳細については、『*Novell Nterprise Linux Services 概要・プランニング・インプリメンテーションガイド*』の「Novell iFolder」を参照してください。

図 6 NNLS 上での iFolder ファイルサービス




## ユーザ検索コンテキストの設定

- 1 ブラウザのアドレスフィールドに次の URL を入力して、iFolder Management ツールを起動します。

**https://IP\_or\_DNS/iFolderServer/Admin**


IP\_or\_DNS は、NNLS サーバの IP アドレスまたは DNS 名です。


ネットワーク上に DNS 名を持つサーバの場合、NNLS をインストールすると、その DNS 名が使用され、サーバの SSL 証明書が作成されます。証明書が一致しないというメッセージを回避するため、アクセス URL には常にこの DNS 名を使用してください。

- 2 [グローバル設定] アイコン  をクリックします。
- 3 Admin としてログインします。
- 4 左側の画面で、[User LDAPs (ユーザの LDAP)] をクリックします。
- 5 右側の画面で、[iFolder LDAP Server (iFolder LDAPサーバ)] リンクをクリックします。
- 6 [Contexts to Search (検索するコンテキスト)] セクションで、[Search Subcontexts (サブコンテキストを検索)] オプションをオンにします。
- 7 [更新] をクリックします。

## iFolder ユーザの有効化

iFolder のインストール後に作成されるユーザはすべて自動的に iFolder を利用できるようになるため、次の手順は、このラボでのインストールには必要ありません。ただし、ネットワークユーザの iFolder アクセスが実際に有効かどうかを確認しておくことをお勧めします。

- 1 前のセクションの **ステップ 7** に続いて、[User Management (ユーザ管理)] アイコン  をクリックします。
- 2 左側の画面で、[高度な検索] をクリックします。
- 3 右側の画面で、[検索] をクリックします。

iFolder のインストール後に作成されたユーザの iFolder アクセスは、有効になっています 。
- 4 (オプション)追加したユーザの iFolder アクセスを有効にするには、[User Management (ユーザ管理)] ダイアログボックスのオプションを使用します。

## 次の手順

この時点で iFolder ファイルサービスのテストを実施する場合は、**52 ページの「iFolder の使用」**に進んでください。

それ以外の場合は、**6 章「Virtual Office」(35 ページ)**に進んでください。

# 6

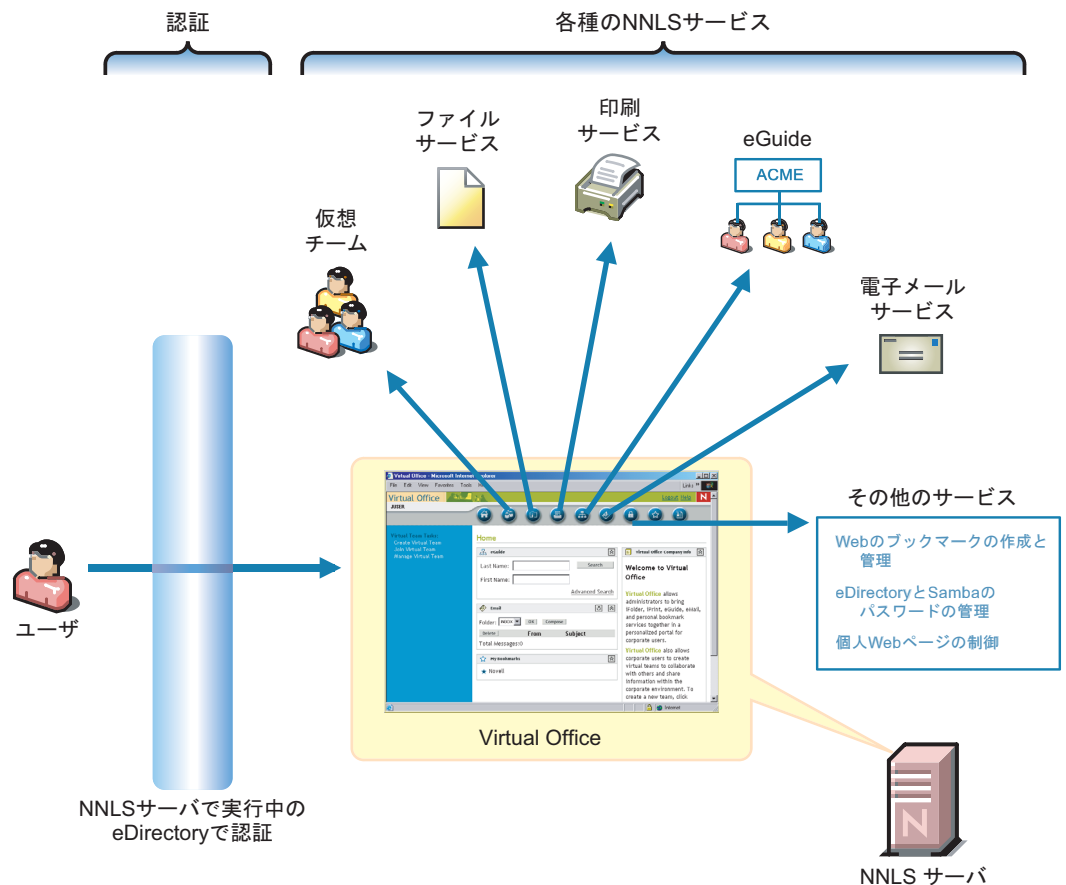
## Virtual Office

Novell Virtual Office は、Novell<sup>®</sup> Nterprise<sup>™</sup> Linux Services (NNLS) の中核となる作業効率化コンポーネントです。これを使用すると、NNLS サービスに Web 経由でアクセスできるようになります。

図 7 は、このガイドに記載された NNLS ラボインストールで使用できるデフォルトのサービスを示しています。

NNLS での Virtual Office の詳細については、『*Novell Nterprise Linux Services 概要・プランニング・インプリメンテーションガイド*』の「概要」を参照してください。

図 7



## 次の手順

このガイドの手順を実行すると、Virtual Office のインストールが完了します。このガイドで説明されている以上の設定は必要ありません。

この時点で Virtual Office のテストを実施する場合は、54 ページの「Virtual Office の使用」に進んでください。

それ以外の場合は、7 章「iPrint」(37 ページ)に進んでください。

# 7

## iPrint

Novell iPrint は Novell® Nterprise™ Linux Services (NNLS) のプリントサービスコンポーネントであり、簡単に導入できる強力な印刷ソリューションです。これを使用すると、ネットワークユーザは、任意の Windows ワークステーションから任意のネットワークプリンタに印刷できるようになります。

このセクションでは、次の項目について説明します。

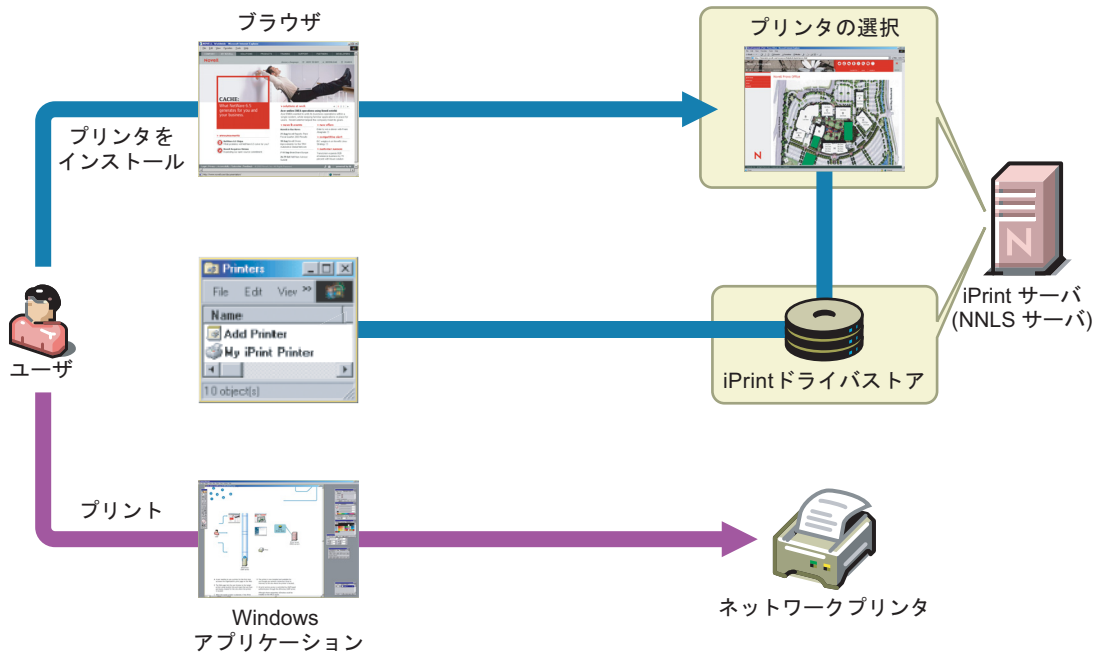
- ◆ 37 ページの「概要」
- ◆ 38 ページの「プリンタ用 eDirectory コンテキストの作成」
- ◆ 39 ページの「プリントドライバストアの作成」
- ◆ 39 ページの「Windows プラットフォームからドライバストアへのプリンタドライバの追加」
- ◆ 40 ページの「プリントマネージャオブジェクトの作成」
- ◆ 41 ページの「iPrint プリンタオブジェクトの作成」

### 概要

38 ページの **図 8** は、この後のセクションの手順を完了したときに利用可能になるプリントサービスを示しています。

NNLS での iPrint サービスの詳細については、『*Novell Nterprise Linux Services 概要・プランニング・インプリメンテーションガイド*』の「**iPrint の機能**」を参照してください。

図 8 NNLS 上での iPrint






## プリンタ用 eDirectory コンテキストの作成

システム管理者がネットワークプリンタ専用のコンテナオブジェクトを1つ以上作成する場合もよくあります。組織では、それぞれのニーズに応じてこのような作成方法を選択できます。プリンタは、組織内の任意の場所に設置できます。

- 1 ブラウザのアドレスフィールドに次の URL を入力し、iManager を起動します。

**`http://IP_or_DNS/nps/iManager`**

*IP\_or\_DNS* は、NNLS サーバの IP アドレスまたは DNS 名です。

- 2 iManager に Admin としてログインします。
- 3 [オブジェクトの表示] アイコン  をクリックします。
- 4 左側の画面で、acme 組織オブジェクト  の横にある下矢印  をクリックします。
- 5 [lab] をクリックし、ドロップダウンリストから [オブジェクトの作成] を選択します。
- 6 [使用可能なオブジェクトクラス] リストから [部門] を選択し、[OK] をクリックします。
- 7 [Organizational Unit name (部門名)] フィールドに、「**Printers**」と入力します。
- 8 [OK] > [OK] の順にクリックします。

## プリントドライバストアの作成

- 1 iManager で、[役割およびタスク] アイコン  をクリックします。
- 2 [iPrint] > [Create Driver Store (ドライバストアの作成)] の順にクリックします。
- 3 [Driver Store Name (ドライバストア名)] フィールドに、「**Print\_Drivers**」と入力します。
- 4 [コンテナ名] フィールドの横にある [参照] アイコン  をクリックします。
- 5 lab の横にある下矢印  をクリックし、Printers 部門オブジェクトをクリックします。
- 6 [eDir Server (eDir サーバ)] フィールドの横にある [参照] アイコン  をクリックします。
- 7 lab の横にある下矢印  をクリックし、Servers の横にある下矢印  をクリックして、使用している NNLS サーバ名をクリックします。
- 8 [OK] > [OK] の順にクリックします。


## Windows プラットフォームからドライバストアへのプリンタドライバの追加

ドライバファイルを使用すると、プリンタドライバをドライバストアにロードできます。ただし、ほとんどの Windows ワークステーションには、システムで利用できるプリンタドライバが多数用意されているため、最も簡単にプリンタドライバを追加する方法は、ワークステーションからドライバを直接ロードすることです。

つまり、Windows XP ドライバは Windows XP ワークステーションからロードし、Windows 2000 ドライバは Windows 2000 ワークステーションからロードします。









ラボ内に設置した各 Windows プラットフォームに対して、次に示す手順を 1 回ずつ実行します。

- ◆ Windows XP
  - ◆ Windows 2000
  - ◆ Windows NT 4
  - ◆ Windows 95/98/ME
- 1 ワークステーションでブラウザを開き、アドレスフィールドに次の URL を入力します。  
**http://IP\_or\_DNS/ipp**  
*IP\_or\_DNS* は、NNLS サーバの IP アドレスまたは DNS 名です。
  - 2 [iPrint Client のインストール] をクリックします。
  - 3 [開く] をクリックします。
  - 4 使用許諾書を読み、[同意する] をクリックします。
  - 5 クライアントがインストールされたら、[完了] をクリックします。
  - 6 ブラウザを閉じます。
  - 7 まだ実行していない場合は、iManager を起動し (<http://server/nps/iManager>)、Admin としてログインします。

- 8 [iPrint] > [ドライバストアの管理] の順にクリックします。
- 9 [iPrint のドライバストア名] フィールドの横にある [参照] アイコン  をクリックします。
- 10 Printers コンテナを参照し (acme>lab>printers)、[Print\_Drivers] オブジェクトをクリックします。
- 11 [OK] をクリックします。
- 12 [ドライバ] タブをクリックします。
- 13 使用しているワークステーションの種類 (Windows XP、Windows 2000 など) を示すリンクをクリックします。
- 14 [Add from System ( システムから追加 )] をクリックします。
- 15 [リソースの追加] ダイアログボックスで、ラボのテストで使用する予定のプリンタに適したドライバを選択します。
- 16 [OK] をクリックします。
- 17 ( オプション ) 複数のプリンタをテストするには、テストするプリンタごとに **ステップ 14** から **ステップ 16** を繰り返します。
- 18 完了したら、[適用] > [OK] の順にクリックします。

## プリントマネージャオブジェクトの作成







iPrint Manager は、eDirectory™ のプリントマネージャオブジェクトによって表示および管理されます。これは NNLS サーバ上で実行されるデーモンであり、プリントオブジェクトの作成時に実行されている必要があります。プリント設定が完了すると、iPrint マネージャはプリントジョブ要求を受け取り、プリンタの準備が整った時点でその要求をプリンタに転送します。

- 1 前のセクションの **ステップ 18** に続いて、[iPrint] > [プリントマネージャの作成] の順にクリックします。
- 2 [マネージャ名] フィールドに、次のように入力します。  
**iPrint\_Manager**
- 3 [コンテナ名] フィールドの横にある [参照] アイコン  をクリックします。
- 4 lab の横にある下矢印  をクリックし、[Printers] をクリックします。
- 5 [eDir Server (eDir サーバ)] フィールドの横にある [参照] アイコン  をクリックします。
- 6 lab の横にある下矢印  をクリックし、Servers の横にある下矢印  をクリックして、使用している NNLS サーバ名をクリックします。
- 7 [ドライバストア] フィールドの横にある [参照] アイコン  をクリックします。
- 8 lab の横にある下矢印  をクリックし、Printers の横にある下矢印  をクリックして、[Print\_Drivers] をクリックします。
- 9 [OK] > [OK] の順にクリックします。



## iPrint プリンタオブジェクトの作成

ドライバがドライバストア内にあり、IP アドレスまたは DNS 名が指定されているすべてのプリンタに対して、iPrint プリンタオブジェクトを作成できます。

- 1 iManager で、[役割およびタスク] アイコン  をクリックします。
- 2 [iPrint] > [プリンタの作成] の順にクリックします。
- 3 [プリンタ名] フィールドに、プリンタの名前を入力します。
- 4 [コンテナ名] フィールドの横にある [参照] アイコン  をクリックします。
- 5 lab の横にある下矢印  をクリックし、[Printers] をクリックします。
- 6 [マネージャ名] フィールドの横にある [参照] アイコン  をクリックします。
- 7 lab の横にある下矢印  をクリックし、Printers の横にある下矢印  をクリックして、[iPrint\_Manager] をクリックします。
- 8 表示されるフィールドに、プリンタの DNS 名または IP アドレスを入力します。
- 9 プリンタの場所を入力し、ユーザが設置場所を把握できるようにします。
- 10 (オプション) 説明を入力します。
- 11 [次へ] をクリックします。
- 12 テストする各 Windows プラットフォームに適したドライバを選択します。
- 13 [次へ] をクリックします。
- 14 [OK] をクリックします。

## 次の手順

この時点で iPrint のテストを実施する場合は、55 ページの「[iPrint の使用](#)」に進んでください。

それ以外の場合は、8 章「[NetStorage](#)」(43 ページ)に進んでください。



# 8

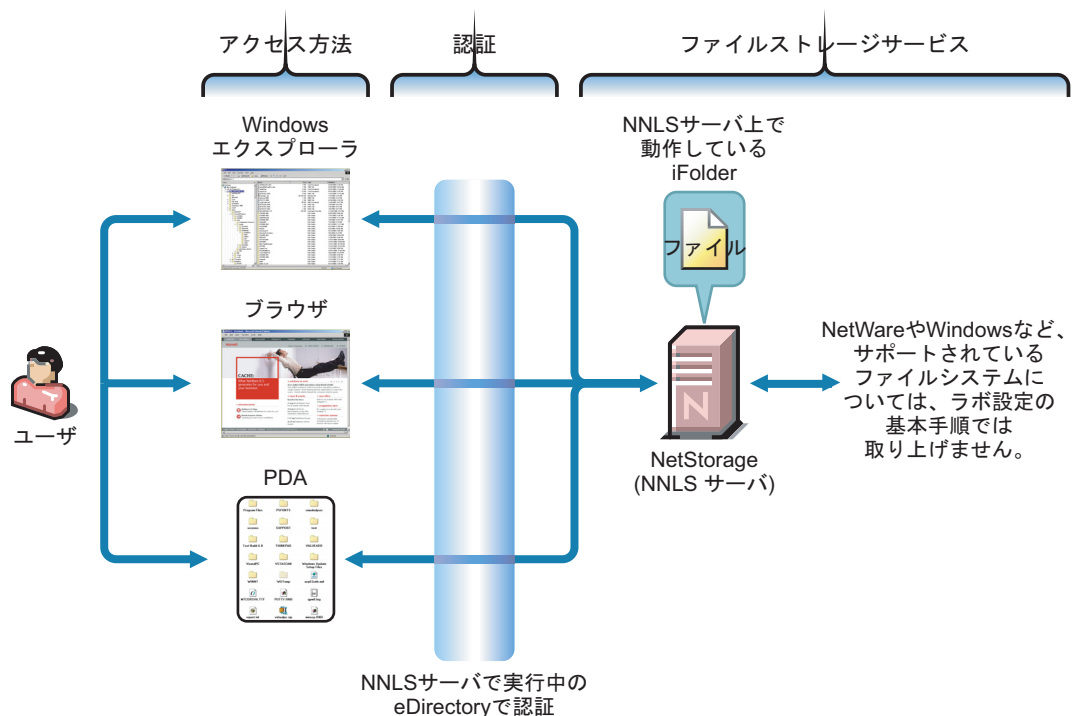
## NetStorage

Novell NetStorage は、Novell® Nterprise™ Linux Services (NNLS) の各種ファイルサービスコンポーネントです。これは、Virtual Office の一部としてインストールされ、Virtual Office の [ファイル] ボタンから実行されるファイルサービスを提供します。ただし、NetStorage には、Virtual Office を経由せずに直接アクセスすることもできます。

図9は、デフォルトで使用可能になっているNetStorageファイルサービスを示しています。

NNLSでのNetStorageファイルサービスの詳細については、『*Novell Nterprise Linux Services 概要・プランニング・インプリメンテーションガイド*』の「Novell NetStorage」を参照してください。

図9 NNLS 上での NetStorage



NNLS では、NetStorage のデフォルトのインストールを行うと、次の2つのフォルダにアクセスできるようになります。

- ◆ ローカルファイルシステム上にあり、ReadMe.html ファイルが保存されている共有フォルダ (ReadMe.html ファイルには NetStorage ストレージロケーションオブジェクトの作成方法が記載されています)。

- ◆ サーバ上の Novell iFolder<sup>®</sup> データストアにリンクする iFolder Storage Provider。

NNLS では、NetStorage から iFolder へのアクセスは自動的に設定されます。

**重要:** 11 章「NNLS の学習」(49 ページ) で指示された手順を実行した場合は、ラボユーザが NetStorage にアクセスするより先に、すべてのラボユーザに関する 52 ページの「iFolder クライアントを使用した ユーザアカウントへのアクセス」のセットアップ処理が完了していることとなります。ユーザが NetStorage または Virtual Office 経由で初めてファイルにアクセスする場合でも、パスフレーズの設定を求めるプロンプトは表示されず、iFolder データストア内のデータは暗号化されません。

## 次の手順


iFolder のテストをすでに終了し ( 前述の「重要」を参照 )、NetStorage ファイルサービスのテストを実施しようとしている場合は、55 ページの「NetStorage の使用」に進んでください。

それ以外の場合は、9 章「eGuide」(45 ページ) に進んでください。

# 9

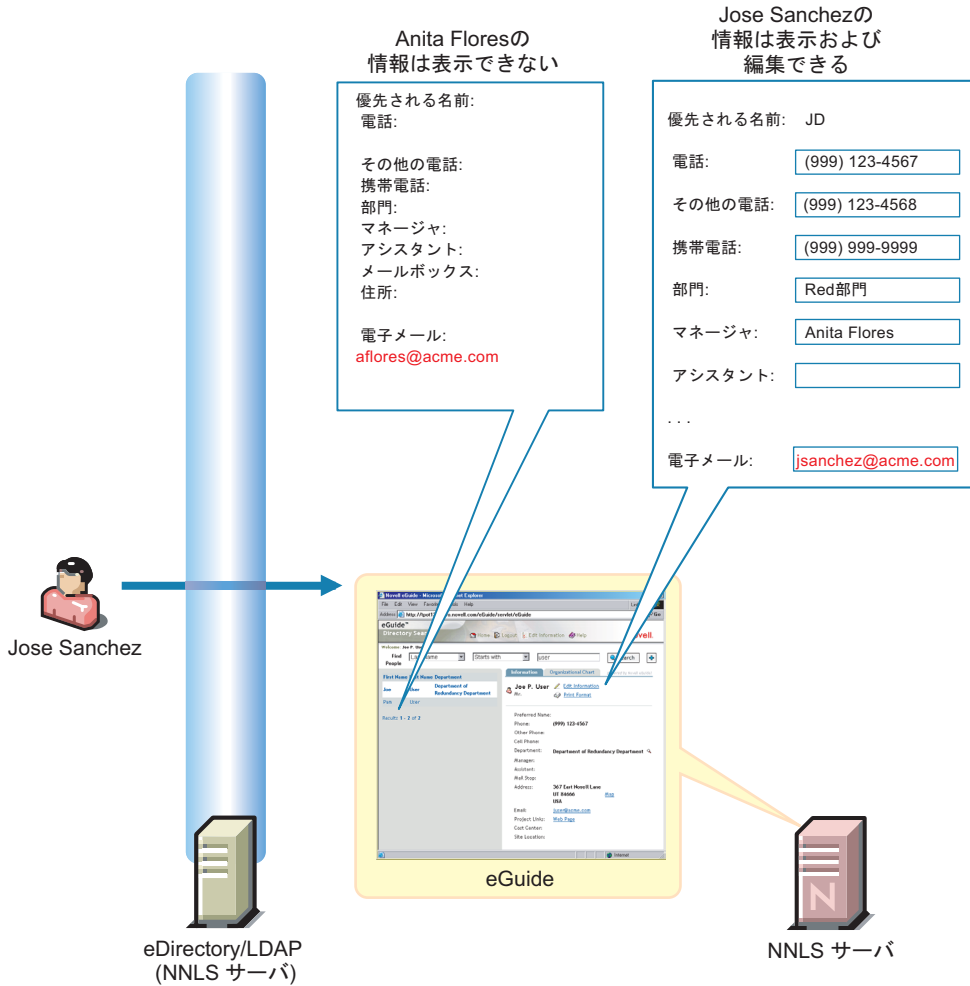
## eGuide

Novell® eGuide は、Novell Nterprise™ Linux Services (NNLS) の Virtual Office の一部としてインストールされ、eDirectory™ やその他の LDAP 準拠データソースに格納されている情報へのユーザアクセスを提供します。eGuide では、ユーザは電話帳を調べるような感覚でユーザ情報にアクセスできます。管理者が eDirectory オブジェクトに格納した情報はすべて、eGuide からユーザに提供されます。

46 ページの  は、デフォルトで、NNLS 上の eGuide を利用してユーザが自分の情報を閲覧する仕組みと、システム上の他ユーザに関する情報の一部を閲覧する仕組みを説明しています。

NNLS での eGuide の詳細については、『*Novell Nterprise Linux Services 概要・プランニング・インプリメンテーションガイド*』の「eGuide」を参照してください。

図 10 NNLS 上での eGuide



## 次の手順

この時点で eGuide のテストを実施する場合は、56 ページの「eGuide の使用」に進んでください。

それ以外の場合は、10 章「Linux User Management (LUM)」(47 ページ)に進んでください。

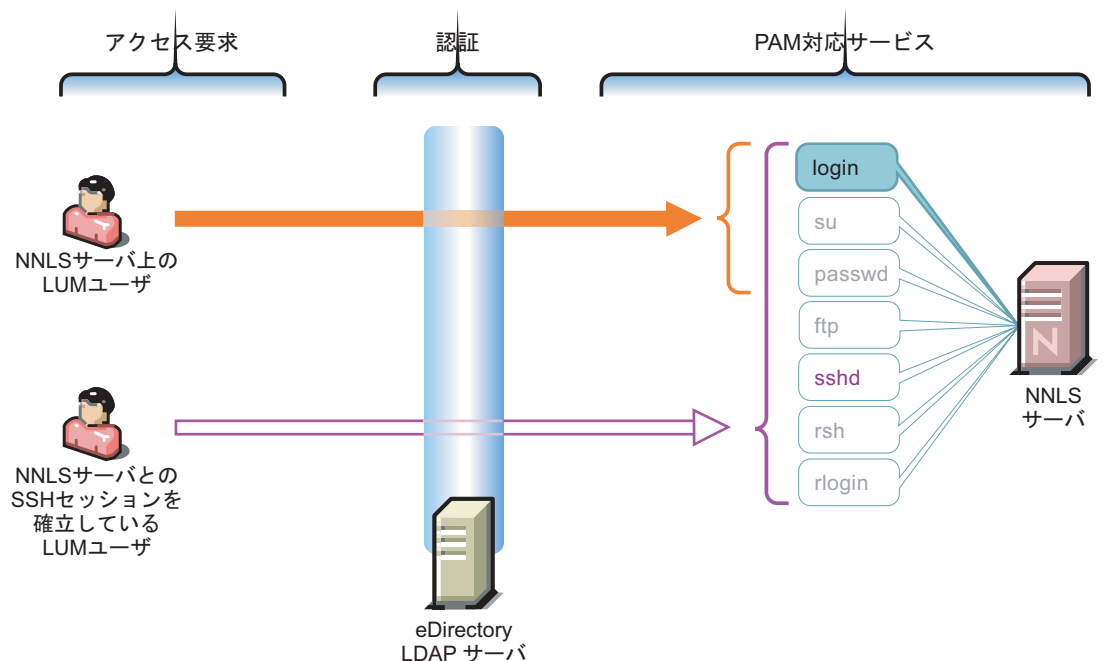
# 10 Linux User Management (LUM)

Novell® Linux User Management (LUM) は、Novell Nterprise™ Linux Services (NNLS) の重要なコンポーネントで、次の 2 つの基本機能を備えています。

- ◆ このガイドの前半で説明したように、eDirectory™にLinuxユーザオブジェクトを作成し、Windows ユーザが NNLS サーバの Samba ファイルサービスを利用できるようにします。
- ◆ NNLS サーバで login や ftp などの PAM 対応サービスにアクセスしているユーザに対し、eDirectory での認証を要求できます。

図 11 は、LUM が PAM 対応サービスと連携する仕組みを示しています。詳細については、『*Novell Nterprise Linux Services 概要・プランニング・インプレメンテーションガイド*』の「Linux User Management (LUM)」を参照してください。

図 11 NNLS での Linux User Management



48 ページの表 4 は、LUM をインストールすると制御可能になる PAM 対応サービスを示しています。デフォルトでは、NNLS インストール中に LUM サポートとして有効になるのは login コマンドだけです。

表 4 PAM 対応サービス

コマンド	実行場所	LUM ユーザに対する機能
ftp	別のホスト	eDirectory/LUM ユーザ名とパスワードを提供した後、NNLS サーバとの間でファイルを転送します。
login	NNLS サーバ、または NNLS サーバとの SSH セッション内	eDirectory/LUM ユーザ名とパスワードを使用して、直接 NNLS サーバにログインするか、サーバとの SSH セッション中にログインします (sshd も有効な場合)。
passwd	NNLS サーバ、または NNLS サーバとの SSH セッション内	現在のユーザの eDirectory パスワードを変更します。  注 : NNLS でのパスワード変更には、Virtual Office を使用することをお勧めします。詳細については、『 <i>Novell Nterprise Linux Services 概要・プランニング・インプリメンテーションガイド</i> 』の「パスワード管理と Samba のパスワード」を参照してください。
rlogin	別のホスト	eDirectory/LUM のユーザ名とパスワードを提供した後、リモートホストシステムのシェルプロンプトから NNLS サーバにログインします。
rsh	別のホスト	eDirectory/LUM のユーザ名とパスワードを提供した後、リモートホストシステムのシェルプロンプトから NNLS サーバ上でコマンドを実行します。
sshd	別のホスト	eDirectory/LUM のユーザ名とパスワードを提供した後、セキュリティ保護された暗号化接続を NNLS サーバとの間で確立します。
su	NNLSサーバ、またはNNLSサーバとの SSH セッション内	eDirectory/LUM ユーザとしてログインしている間は、一時的に別のユーザと見なされます。  多くの場合、LUM ユーザでなく一時的な root ユーザとして、ローカルの Linux マシンを管理する完全なシステム権限が与えられます。

このガイドの前半 (23 ページの「ユーザ (eDirectory ユーザオブジェクト) の作成」) で説明したユーザ作成手順では、NNLS サーバにログインする権利を持つ LUM ユーザを 3 人作成しました。

## 新しい手順

この時点で LUM サービスのテストを実施する場合は、56 ページの「Linux User Management (LUM) の使用」に進んでください。

それ以外の場合は、11 章「NNLS の学習」(49 ページ)に進んでください。



# 11

## NNLS の学習

Novell® Nterprise™ Linux Services (NNLS) をインストールし、これまでのセクションで説明した設定を完了すると、NNLS サーバをラボで使用する準備が整います。

このセクションでは、NNLS で利用できる基本的なサービスについて学習します。サービスの詳細については、『*Novell Nterprise Linux Services 概要・プランニング・インプレメンテーションガイド*』を参照してください。各サービスの総合的なマニュアルについては、[NNLS マニュアルの Web サイト \(http://www.novell.com/documentation/japanese/npls\)](http://www.novell.com/documentation/japanese/npls)にある管理ガイドおよびその他のマニュアルを参照してください。

### Samba (Windows ファイルサービス) の使用

**注:** このセクションの手順を実行するには、3 章「NNLS 上での Samba (Windows ファイルサービス)」(25 ページ)に記載された指示をすべて完了している必要があります。

- 1 Windows エクスプローラで、[ツール] > [ネットワーク ドライブの割り当て] の順にクリックします。
- 2 [フォルダ] フィールドに、次のように入力します。  
`\\IP_or_DNS\username`  
ここで、*IP\_or\_DNS* は NNLS サーバの IP アドレスまたは完全な DNS 名で、*username* は Samba ユーザのログイン名です。
- 3 (状況によって実行) Samba のユーザ名とパスワードが Windows ワークステーションへのログインに使用したユーザ名およびパスワードと一致しない場合は、別のユーザ名のリンクをクリックし、eDirectory に作成した Samba ユーザのユーザ名とパスワードを指定します。
- 4 [完了] をクリックします。
- 5 Windows エクスプローラまたはデスクトップからファイルを Samba フォルダにドラッグします。
- 6 NNLS サーバのシェルプロンプトが表示されたら、root ユーザとして `/home/username` ディレクトリにアクセスし、Samba フォルダに入れたファイルがサーバから見えることを確認します。

デフォルトでは、このドライブマッピングは、Windows ワークステーションにユーザがログインするたびに利用可能になります。



# ブラウザを使用した NetMail へのアクセス

注: このセクションの手順を実行するには、4章「メッセージングサービス」(29 ページ)に記載された手順をすべて完了している必要があります。

- 1 Java\*対応の Web ブラウザを使用し、次の URL を入力して NetMail™ にアクセスします。

`http://IP_or_DNS:52080`

*IP\_or\_DNS* は、NNLS サーバの IP アドレスまたは DNS 名です。




- 2 bjohnson としてログインします。
- 3 (オプション) NetMail ヘルプウィンドウを開いて WebAccess インタフェースについて調べるには、ヘルプアイコン  をクリックします。
- 4 WebAccess ウィンドウの左端の画面で、[作成] アイコン  をクリックします。
- 5 [アドレス帳] ボタンをクリックします。
- 6 [検索語句] フィールドに、「john」と入力します。
- 7 [検索] をクリックします。


Arnold Johns と Bobby Johnson の両方がシステム全体のアドレス帳に表示されていることを確認します。

[検索語句] フィールドに入力したそれぞれの文字列は、次の項目に対して検索されます。

- ◆ ユーザ名
- ◆ 名
- ◆ 姓

いずれも、NetMail 検索コンテキスト内のすべての™ eDirectory ユーザが対象です。

- 8 Arnold Johns を選択し、[宛先] をクリックします。  
Arnold の電子メールアドレスが右側の [現在の受信者] リストに表示されることを確認します。
- 9 Bobby Johnson を選択し、[CC] をクリックします。  
Bjohnson の電子メールアドレスもリストに表示されます。
- 10 [作成] をクリックし、[メールメッセージ] ウィンドウに戻ります。
- 11 件名と簡単な本文を入力します。
- 12 [送信] をクリックします。
- 13 [メールボックスを表示する] アイコン  をクリックし、bjohnson の受信ボックスをリフレッシュします。  
作成した電子メールがリストに表示されることを確認します。
- 14 [終了] アイコン  をクリックします。
- 15 ログインのリンクをクリックし、cmartin としてログインします。
- 16 [作成] アイコン  をクリックします。

- 17 [項目変更] 行で [アポイント] をクリックします。
- 18 アポイントとアドレスを作成し、別の2人の eDirectory ユーザ (ajohns および bjohnson) に送信します。
- 19 [カレンダーを表示する] アイコン  をクリックします。  
作成したアポイントがアポイントのリストに表示されることを確認します。


## GroupWise Collaboration クライアントを使用した NetMail へのアクセス

注: このセクションの手順を実行するには、[32 ページの「GroupWise 6.5 Collaboration Client のインストール」](#)に記載された手順もすべて完了している必要があります。

### NetMail アカウントの作成

- 1 GroupWise® Collaboration クライアントがインストールされている Windows ワークステーションで、デスクトップの GroupWise アイコンをダブルクリックし、クライアントを起動します。  
**重要:** リモートダイヤルを設定していないコンピュータの場合は、国と市外局番の入力を求めるダイアログボックスが表示されます。クライアントの設定を続行するには、必要な情報を入力します。ここで入力した内容は、GroupWise クライアントには影響しません。
- 2 データベースパスを作成するかどうかを確認するプロンプトが表示されたら、[はい] をクリックします。
- 3 [アカウントの作成] ダイアログボックスで、アカウントの名前として「ajohns」と入力します。
- 4 [アカウントタイプ] ドロップダウンリストで、[IMAP4] を選択します。
- 5 [次へ] をクリックします。
- 6 [受信] フィールドに、NNLS サーバの完全な DNS 名または IP アドレスを入力します。
- 7 [ログイン名] フィールドに、「ajohns」と入力します。
- 8 次の2つのフィールドをクリックすると、正しい情報が自動的に入力されます。
- 9 [送信者名] フィールドに、「Arnold Johns」と入力します。
- 10 [次へ] > [次へ] の順にクリックします。
- 11 [上へ] ボタンと [下へ] ボタンを使用して、既存のフォルダに対する新しいフォルダの相対的な位置を決定します。  
たとえば、新しいフォルダをリストの一番上に移動します。
- 12 [完了] をクリックします。

## NetMail アカウントへのアクセス

- 1 GroupWiseクライアント で、前の手順で作成した ajohns アカウント をクリックします。
- 2 eDirectory のユーザ名とパスワードを使用して、NetMail サーバにログインします。  
データベースがローカルハードドライブに移行される間にわずかな遅延が発生する場合があります。
- 3 左側の画面で、[受信ボックス] アイコン  をクリックします。  
作成したメッセージとアポイントが右側の画面に表示されることを確認します。

GroupWise Collaboration クライアントを NetMail サーバとともに使用方法の詳細については、GroupWise クライアントで [ヘルプ] > [What's New (最新情報)] の順にクリックしてください。

## iFolder の使用

注: このセクションの手順を実行するには、5章「Novell iFolder」(33 ページ)に記載された手順をすべて完了している必要があります。

### iFolder クライアントを使用したユーザアカウントへのアクセス

iFolder データストア内のユーザデータを暗号化するという Novell iFolder<sup>®</sup> の重要な機能を有効にするには、このセクションの手順を実行する必要があります。

データ暗号化は、ユーザが iFolder クライアントまたは Novell NetDrive 経由で自分のアカウントに初めてアクセスしたときに、自動的に設定されます。

逆に、NetStorage または Virtual Office 経由で初めてファイルにアクセスした場合は、パスワードを設定するように求めるプロンプトが表示されず、データストア内のデータは暗号化されません。

- 1 Windows ワークステーションのブラウザで、次の URL を入力して iFolder サーバにアクセスします。  
**http://IP\_or\_DNS/iFolder**  
IP\_or\_DNS は、NNLS サーバの IP アドレスまたは DNS 名です。
- 2 左側の画面で、[ダウンロード] リンクをクリックします。
- 3 [ダウンロード] ダイアログボックスで、[開く] をクリックします。
- 4 [次へ] > [次へ] の順にクリックします。
- 5 使用許諾書を読み、ライセンスウィンドウを閉じます。
- 6 使用許諾契約に同意するには、[はい] をクリックします。
- 7 (オプション) プログラムファイルのダウンロード先として別の場所を指定します。
- 8 [次へ>] > [完了] の順にクリックします。
- 9 (オプション) iFolder の Readme ファイルを読み、Readme のウィンドウを閉じます。
- 10 [完了] をクリックして、コンピュータを再起動します。
- 11 コンピュータが再起動したら、iFolder の使用方法に関する情報を読みます。
- 12 [続行] をクリックします。

- 13 そのワークステーションを使用する iFolder ユーザのユーザ名とパスワードを使用して、iFolder にログインします。
- 14 ワークステーションで iFolder のデフォルトの場所をそのまま使用するか、[参照] ボタンを使用して別の場所を指定します。
- 15 [OK] をクリックします。
- 16 [ファイルを暗号化する] オプションをオンのままにして、[OK] をクリックします。
- 17 表示されるフィールドにパスフレーズ、確認用のパスフレーズ、およびヒント (オプション) をそれぞれ入力し、[OK] をクリックします。
- 18 [OK] をクリックして、パスフレーズの回復を有効にします。

次のセクション「[ファイル同期の観察](#)」に進んでください。

## ファイル同期の観察

iFolder の仕組みは、ファイル同期プロセスの進行状況を観察するとよく理解できます。

- 1 デスクトップの iFolder ショートカットを開きます。
- 2 システムトレイの iFolder アイコンをダブルクリックして、[状態の表示] をクリックします。
- 3 デスクトップにテスト用ファイルを 1 つか 2 つ作成します。
- 4 作成したファイルを iFolder Home フォルダにドラッグします。
- 5 [状態の表示] ウィンドウで、ファイルが iFolder サーバにコピーされるプロセスを確認します。
- 6 ファイルを削除するか、デスクトップにドラッグして戻し、その操作がサーバとどのように同期されるかを観察します。

iFolder Home フォルダに 1 つか 2 つのファイルを残し、次のセクション「[NetDrive](#)」に進んでください。

## NetDrive

Novell NetDrive を使用すると、ネットワークドライブを iFolder ディレクトリにマップできます。

- 1 Windows ワークステーションに *Novell Nterprise Linux Services Companion CD* を挿入します。
- 2 CD のルートの NetDrive フォルダにある NetDrive.exe インストールプログラムを実行します。  
より詳しい情報が必要な場合は、『[Novell NetDrive 4.1 User Guide](#)』を参照してください。
- 3 NetDrive がインストールされたら、NetDrive ショートカットをデスクトップにドラッグし、そのショートカットをダブルクリックして NetDrive を起動します。
- 4 [New Site (新しいサイト)] をクリックします。
- 5 最初のフィールドに、Windows エクスプローラでドライブのマッピングに使用する名前を入力します。

たとえば、「MyiFolder」のように入力してください。

- 6 2番目のフィールドに、NNLS サーバの IP アドレスまたは DNS 名を入力します。
- 7 [完了] をクリックします。
- 8 [Server Type (サーバタイプ)] ドロップダウンリストで、[iFolder] を選択します。
- 9 [Drive (ドライブ)] ドロップダウンリストから、使用されていないドライブ文字を選択します。
- 10 [Connect at Login/Startup (ログイン/起動時に接続する)] オプションを選択します。
- 11 [Anonymous/Public Logon (匿名/パブリックログオン)]オプションをオフにします。
- 12 該当するフィールドに iFolder ユーザ名、パスワード、およびパスフレーズをそれぞれ入力します。
- 13 [接続] をクリックします。

開いたウィンドウに、前のセクション「**ファイル同期の観察**」で使用したサンプルファイルが表示されます。
- 14 デスクトップ上に NetDrive ウィンドウ、iFolder デスクトップショートカットの Home フォルダ、および [状態の表示] ウィンドウがすべて見えるように配置します。
- 15 NetDrive ウィンドウで、1つのファイルの名前を変更します。

[状態の表示] ウィンドウに変更対象ファイルの名前が表示され、動作状態がデスクトップショートカットの Home フォルダに同期されるのを確認します。

通常、NetDrive と iFolder クライアントは一緒には使用しないため、このセクションのシナリオは実際の iFolder 操作を反映するものではありません。

ただし、この演習では、サーバ上のファイルに加えられた変更が iFolder クライアント経由でローカルファイルに同期されます。

## Virtual Office の使用

- 1 Java 対応の Web ブラウザで、[アドレス] フィールドに次のアドレスを入力します。  
`http://IP_or_DNS/vo`  
*IP\_or\_DNS* は、NNLS サーバの IP アドレスまたは DNS 名です。
- 2 「**iFolder の使用**」セクションで使用したユーザ名を入力してログインします。


メインページの [電子メール] セクションに、ユーザのメールボックスにある電子メールメッセージが表示されることを確認します。
- 3 [eGuide] セクションで、[姓] フィールドに「**john**」と入力し、[検索] をクリックします。

Arnold Johns と Bobby Johnson の両方が一覧表示されます。
- 4 ページ上部にある各アイコンの上にマウスを移動すると、それぞれのアイコンのラベルが表示されます。

次のセクションはそれぞれ独自の URL からアクセスできますが、ここでは Virtual Office からアクセスしてみます。


## iPrint の使用

注：このセクションの手順を実行するには、7章「iPrint」(37 ページ)に記載された手順をすべて完了している必要があります。

- 1 Virtual Office で、[iPrint] アイコン  をクリックします。  
iPrint は、Virtual Office の一部としてインストールされます。
- 2 (オプション) このワークステーションに iPrint クライアントをまだインストールしていない場合は、[iPrint Client のインストール] リンクをクリックしてインストールします。
- 3 クライアントがインストールされたら、リンクをクリックして、41 ページの「iPrint プリンタオブジェクトの作成」で作成したプリンタをインストールします。
- 4 ワークステーションにプリンタをインストールするためのプロンプトに入力します。
- 5 [スタート] > [設定] > [プリンタ] の順にクリックし、iPrinters のプロパティページにアクセスします。
- 6 プリンタを右クリックし、[プロパティ] をクリックします。
- 7 [Print Test Page (テストページの印刷)] をクリックします。


## NetStorage の使用

注：このセクションの手順を実行するには、5章「Novell iFolder」(33 ページ)と 52 ページの「iFolder の使用」に記載された手順をすべて完了している必要があります。完了していない場合、iFolder フォルダに eDirectory ユーザとしてアクセスしたときに、そのユーザの iFolder アカウントがそのユーザのパスワードで暗号化されません。

- 1 Virtual Office で、[ファイル] アイコン  をクリックします。
- 2 左側の画面で、[iFolder] フォルダをクリックします。
- 3 パスフレーズを入力し、確認します。
- 4 [Set Passphrase (パスワードの設定)] をクリックします。
- 5 [iFolder] フォルダを再度クリックします。  
以前に iFolder のセクションで使用したファイルが右側の画面に表示されることを確認します。  
  
54 ページのステップ 15 の場合と同様にフォルダの内容を変更すると、iFolder クライアントで行ったのと同じ動作が確認できます。サーバ上の iFolder データに加えた変更はすべて、ローカルに保存されたディレクトリおよびファイルにクライアント経由で反映されます。
- 6 NetStorage を使用して他のファイルストレージシステムにアクセスする方法の詳細を読むには、[Shared (共有)] フォルダをクリックして、Read Me.html ファイルをダブルクリックします。

NetStorage を使用する詳細については、『*NetStorage Administration Guide*』を参照してください。

## eGuide の使用

- 1 Virtual Office で、[eGuide] アイコン をクリックします。
- 2 作成した eDirectory ユーザを表示するためのさまざま検索文字列を入力します。  
現在ログインしているユーザを選択すると [Edit Information (情報の編集)] オプションが表示されることを確認してください。  
ただし、このオプションは表示専用で、ユーザが情報を編集しようとしても、変更内容を保存することはできません。この機能を有効にするには、ロールベースサービスまたは ACL を割り当てる必要があります。詳細については、『[Novell eGuide 2.1.2 管理ガイド](#)』を参照してください。

## Linux User Management (LUM) の使用

次の手順を実行すると、LUM が PAM 対応サービスと連携する仕組みがわかります。

- 1 NNLS サーバで <Ctrl>+<Alt>+<Fx> を押して、新しいシェルプロンプトを開きます。ここで、Fx は未使用のシェルプロンプトのためのファンクションキー(<F1>~<F6>)です。
- 2 eDirectory ユーザ ajohns としてログインします。  
コマンドプロンプトが変わり、ログインに成功したことがわかります。
- 3 他のファンクションキー(<F2>など)を使用して、別のシェルプロンプトを開きます。
- 4 root ユーザとしてログインします。
- 5 次のコマンドを入力し、/etc/pam.d ディレクトリに移動します。  

```
cd /etc/pam.d
```
- 6 次のコマンドを入力し、ディレクトリ内のログインファイルのコピーを作成します。  

```
cp login login.copy
```
- 7 次のコマンドを入力し、元のログインファイルを編集用に開きます。  

```
vi login
```
- 8 挿入モードに入るには、次のコマンドを入力します。  

```
i
```
- 9 <Delete> キーを使用して、ファイルの先頭の 5 行を削除します。これにより、先頭の行は次のようになります。  

```
##PAM-1.0
```
- 10 <Esc> キーを押します。
- 11 <Shift> キーを押したまま、「z」を 2 回続けて押します。
- 12 最初のシェルプロンプトに戻り、次のコマンドを入力して、ユーザ ajohns としてログアウトします。  

```
exit
```
- 13 ユーザ ajohns として再度ログインを試みます。  
ログイン要求が不正であることを示すメッセージがシステムから返されます。  
ログインファイルから先頭の 5 行を削除したため、login コマンドから LUM サポートが削除されています。



- 14** login コマンドに対する LUM サポートを復元するには、root ユーザとしてログインしたシェルプロンプトに移動し、次のコマンドを入力します。

```
rm login
```

これにより、**ステップ 9** で変更したファイルが削除されます。続いて次のコマンドを入力します。

```
y
```

これにより、ファイルが削除されたことを確認できます。最後に次のコマンドを入力します。

```
mv login.copy login
```

これにより、**ステップ 6** で作成したコピーファイルの名前を元のファイル名に変更し、元のログイン処理を復元できます。

- 15** 最初のシェルプロンプトに戻り、ajohns としてログインして、LUM サポートが復元されたことを確認します。

## 次の手順

このガイドの演習を終了したら、次に示す段階に進むことをお勧めします。

1. 自分の組織のニーズを割り出し、多様な NNLS 製品コンポーネントをどのように利用すればそのニーズを満たせるかについて検討します。
2. 割り出したニーズを念頭に置きながら、各コンポーネントをあらためて操作してみます。
3. 自分の組織の eDirectory ツリーを構築し、組織に対する NNLS サービスのロールアウトを立案します。

NNLS のプランニング、作業、インストールを進める際には、他の NNLS 製品のマニュアルも参照する必要があります。

タイトル	内容
『 <i>Novell Nterprise Linux Services インストールガイド</i> 』	すべての NNLS コンポーネントのインストールプランニング用ワークシートが含まれるほか、総合的なインストール手順が説明されています。
『 <i>Novell Nterprise Linux Services 概要・プランニング・インプリメンテーションガイド</i> 』	すべてのコンポーネントに関する詳細情報に加えて、プランニングの情報と手順、および各 NNLS 製品コンポーネントの管理ガイドに記載された設定保守情報についても説明されています。

